

学校選択制の現状に関する調査・分析結果について（福島区）

1 目的

本市では、大阪の教育力の向上、充実を図り、教育の振興を推進し、子どもたちの最善の利益を図るため、子どもや保護者の意向に答えていく必要があるとの観点から、平成24年度に学校選択制の制度化を行いました。

地域の実情に即した制度とするため、具体的な制度の方針案を区ごとに策定し、平成26年度入学者から小学校6区、中学校12区で開始。その後、順次、実施してきており、平成31年度入学者からは、小学校・中学校ともすべての区で実施しています（生野区の一部を除く）。学校選択制を利用して通学区域外の学校に就学した児童生徒の割合についても、年々増加している状況となっており、制度として定着してきていますが、制度の導入から年数が経過していることから、検証を行う必要があります。

平成27年度の制度導入時に小学校で学校選択制を利用した児童・保護者が、令和3年度に初めて中学校入学時に学校選択制を利用することとなることから、このタイミングを捉え、導入時の「熟議」や「就学制度の改善」において期待されていたメリットや懸念されていた課題について、今後の各区及び市全体において必要な改善を行うための材料の一つとして役立てるために、調査・分析を行いました。

2 調査・分析の視点

調査・分析にあたっては、学校選択制導入時の「熟議」や「就学制度の改善について」で期待されたメリットや懸念された課題をふまえ、今後の大阪市の学校選択制を考える上で考慮すべき項目として、次の項目を全区共通の調査・分析の視点として設定しました。

- 【視点①】学校選択制の満足度はどうか
- 【視点②】子どもや保護者が意見を述べ、学校を選ぶことができるか
- 【視点③】子どもや保護者が学校教育に深い関心を持つようになったか
- 【視点④】特色ある学校づくりが進んだか
- 【視点⑤】開かれた学校づくりが進んだか
- 【視点⑥】児童生徒の通学の安全に課題が生じていないか
- 【視点⑦】学校と地域、保護者の連携に課題が生じていないか
- 【視点⑧】区や学校が提供する情報ではなく、風評等による学校の選択がなされていないか
- 【視点⑨】学校選択制による児童生徒数の増減で、教育的課題が生じていないか

3 調査・分析データ

大阪市では、平成26年度の制度導入より毎年保護者アンケートを実施し、保護者の学校選択理由などを経年的に把握しているところです。

今回の調査・分析を行うにあたり、9項目の「調査・分析の視点」を設定し、各項目の分析に必要な質問を従来の保護者アンケートに追加するとともに、新たに地域団体関係者を対象とするアンケート調査、小中学校を対象とする学校選択制の状況調査を行いました。また、制度導入時からの、学校選択の状況や希望調査票の提出状況についてもとりまとめ、分析に活用しています。

【アンケート調査】

保護者アンケート＝令和3年度に区内の市立小・中学校に入学した児童生徒の保護者全員を対象に実施

※学校選択制導入時（平成27年度）～昨年度（令和2年度）に入学した児童生徒の保護者全員に実施したアンケート調査結果も使用。

地域団体関係者アンケート＝1つの小・中学校あたり5～10サンプルを目安に、地域団体役員等を対象に実施。

【学校状況調査】

区内の全市立小学校・中学校を対象に実施

【運用状況データの活用】

学校選択制によって通学区域外の学校に就学した者の割合、希望調査票の提出状況など

4 アンケート調査等の実施時期・回収方法など

【保護者アンケート】

令和3年5月中旬に各区役所から学校を通じてアンケートを保護者に配付（学校からの配付基準日：5月18日）。
回収は区役所あて6月9日までに返信用封筒で送付。アンケートは無記名。

【地域団体関係者アンケート】

令和3年度に、会議などを通じて、地域団体の役員等に配付し、回収。

【学校状況調査】

令和3年度に、会議などを通じて、1つの学校あたり1枚の調査用紙を配付し、回収。

5 アンケート回収状況

（保護者アンケート）

	配布数	回収数	回収率
小学校	720	421	58.5%
中学校	480	211	44.0%

（地域団体関係者アンケート）

	配布数	回収数	回収率
地域団体役員等	94	73	77.7%

（学校調査）

	配布数	回収数	回収率
小学校	9	9	100.0%
中学校	3	3	100.0%

6 調査・分析結果

3ページから26ページのとおりに

※本報告書の構成について

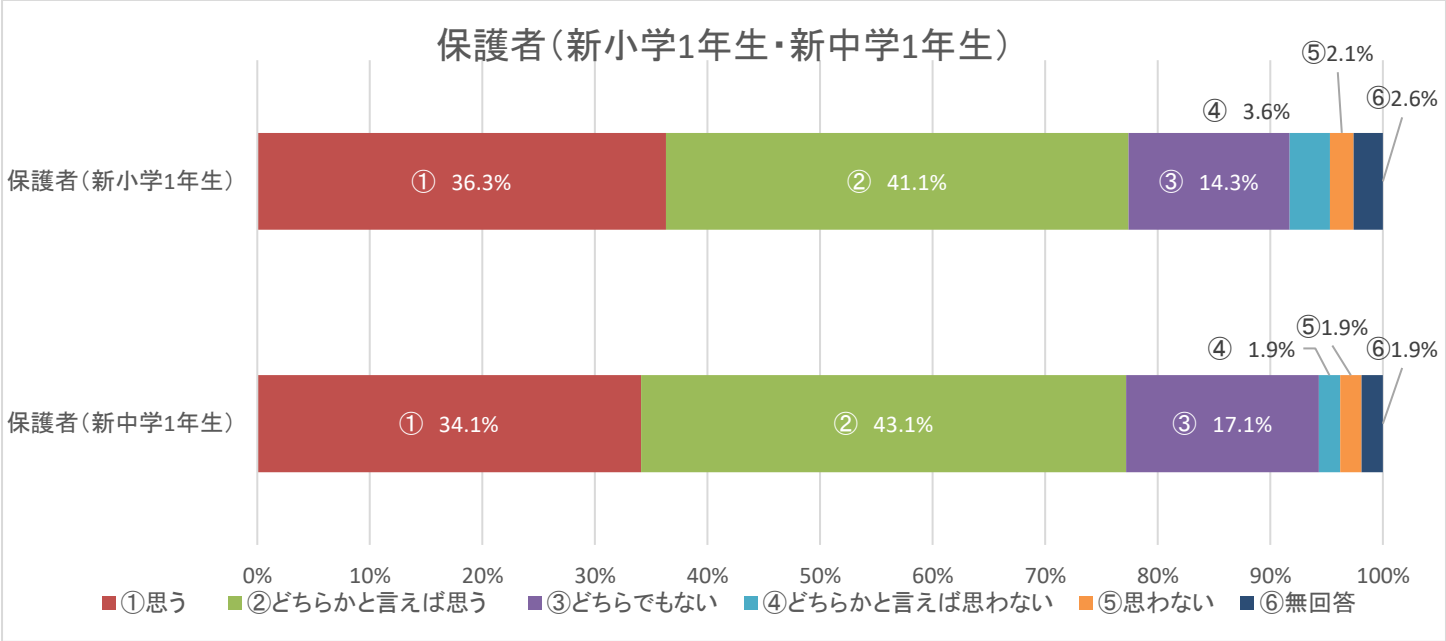
本報告書では、「調査・分析の視点」の各項目にそって、アンケート結果および学校状況調査、運用状況データの調査・分析結果をとりまとめています。アンケート結果にかかる報告書への掲載データは、一部抜粋して示しております。各アンケートにおける、結果の詳細については、「資料編」をご覧ください。
なお、割合については、回答のあった数を小数点第2位を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合があります。

調査・分析内容

【視点①】学校選択制の満足度はどうか

①学校選択制は、大阪市の子どもや保護者、大阪市の学校教育にとって良い制度だと思いますか。
【保護者アンケート(新小学1年生):問20、保護者アンケート(新中学1年生):問27】<1つだけ回答>

ア)全体



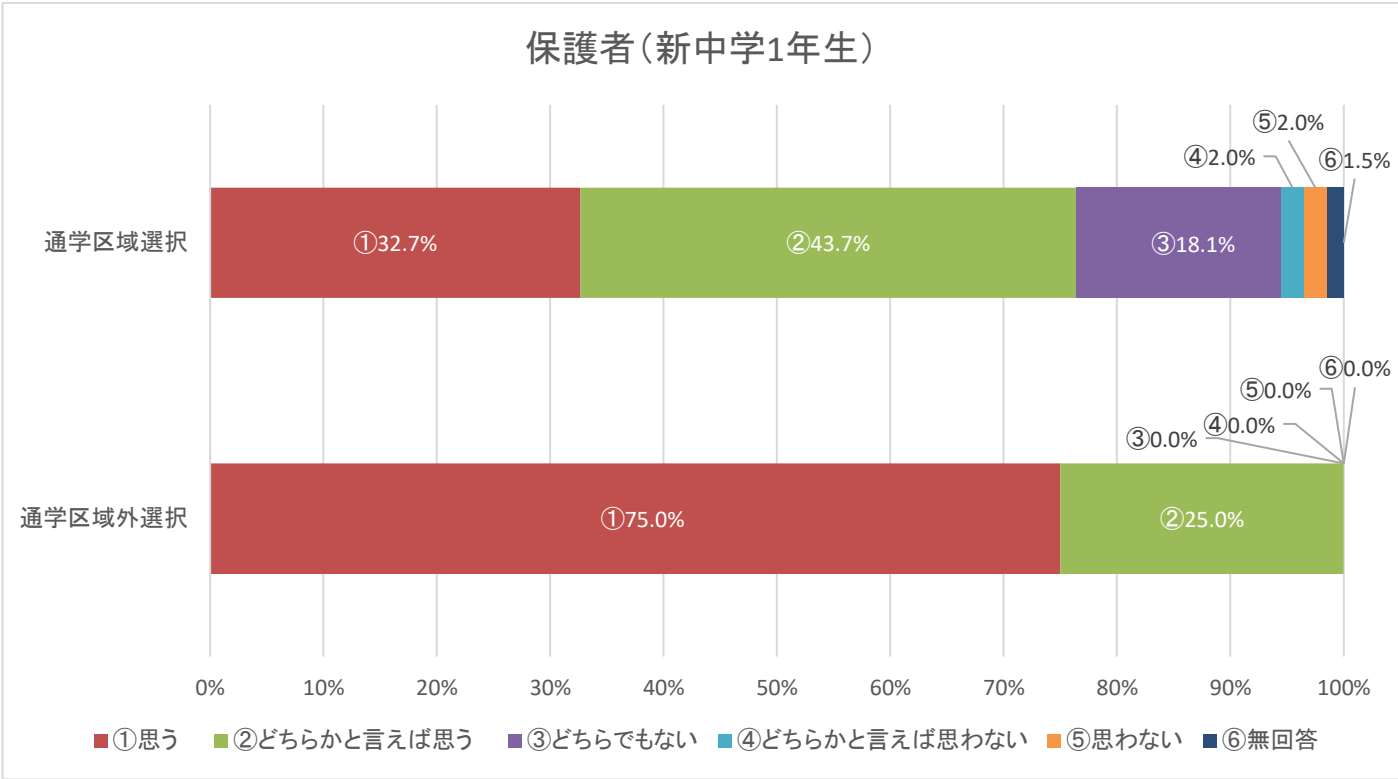
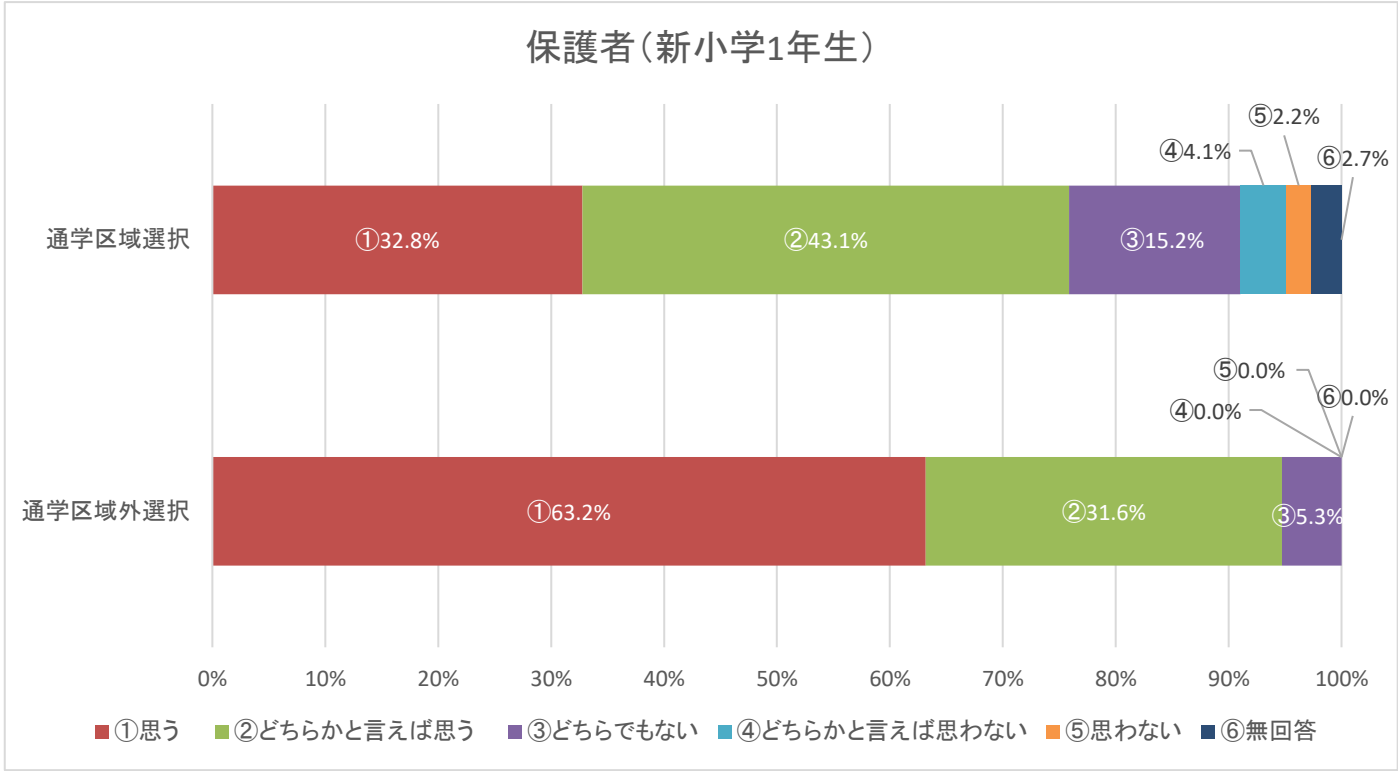
【主な理由】（自由記載一部抜粋）

- 「思う」（記載件数全152件：新小学1年生の保護者109件、新中学1年生の保護者43件）
 - ・通える学校を見学して、本人が希望する学校に通えることは、選択肢が多く良い制度だと思う。
 - ・選択が増えれば範囲も広がり、考え方や考えることも増え、子供にとって何が良いか等親子で考えることができるから。
 - ・決められた学校に通うより、自分が決めた学校に通う方が意欲的に取り組めると思う。
- 「どちらかといえば思う」（記載件数全157件：新小学1年生の保護者113件、新中学1年生の保護者44件）
 - ・各学校の特色や学力などが違うので選択できて良いと思う。
 - ・選択制によって希望する小学校をよく調べようとするのでよりよい環境で子供も学ばせたいという保護者にとっては良い制度だと思う。
 - ・学校運営に良い意味での緊張感をもたらす部分もあると思うため。
- 「どちらでもない」（記載件数全53件：新小学1年生の保護者33件、新中学1年生の保護者20件）
 - ・公立の小学校へ行くのなら、近くに友達のいる校区内の学校に行かせるのが、ベストだと思うので。
 - ・選択肢が少ないというのと、通学路、通学手段、安全・防犯のことを考えると近くの学校に通うのがいちばん良いのではないかという結論になりました。少し無理をして通学することになっても良いからこの学校を選びたいという違いが公立の中ではあまり感じられませんでした。
 - ・見学しただけではわからないから。
- 「どちらかといえば思わない」（記載件数全15件：新小学1年生の保護者12件、新中学1年生の保護者3件）
 - ・近所のお友達とのお付き合いは大事だと思うので、わざわざ遠い他所の小学校に行く必要性を感じないから。それほど学力の差もあると思わないから。
 - ・どのようなメリットがあるのか、あまり感じられないため。
 - ・事情がないにも関わらず、選択制を希望する保護者が多い。特に小学校。校区外からの方はPTA活動不参加率が高い。
- 「思わない」（記載件数全10件：新小学1年生の保護者6件、新中学1年生の保護者4件）
 - ・クラスの数がどんどん増えて学校それぞれの生徒数がかたよってしまうので必要ない。多すぎると困る。
 - ・親が選択する事で子供のためになっているのかわからない。家庭環境や校内で起きる問題の改善ならわかるが。教育にとって良いや悪いかといえば疑問でしかない。
 - ・義務教育（特に小学校）は地域のつながりが重要だから。

（分析）

「思う」「どちらかといえば思う」を合わせた割合が、新小学1年生の保護者は77.4%、新中学1年生の保護者は77.2%となっており、多くの保護者が制度を支持している。また、「どちらでもない」と回答した保護者も一定数おり、「この学校を選びたいという違いが公立の中ではあまり感じられない」「見学しただけではわからない」などの意見もあった。

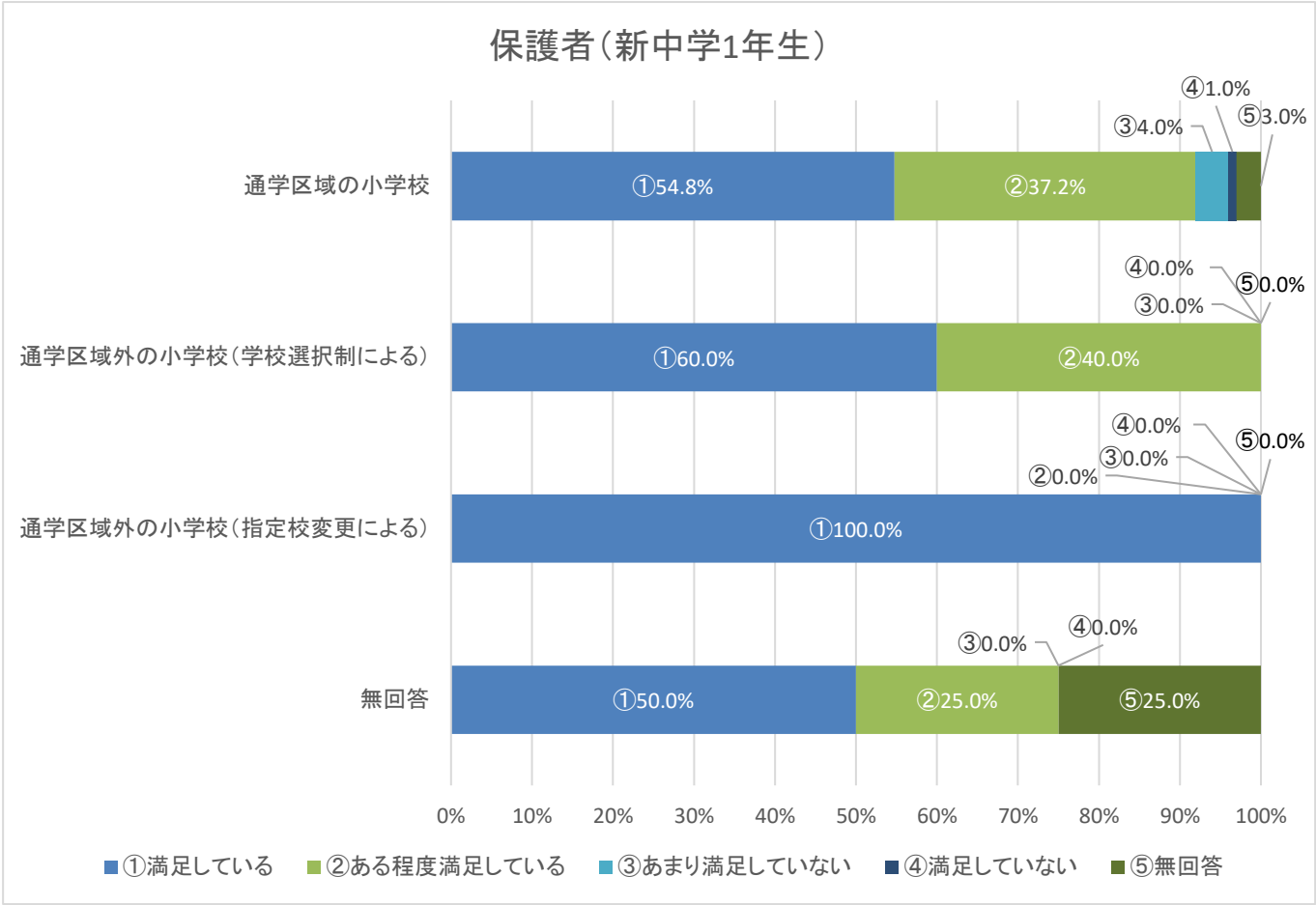
イ)通学区域・通学区域外別



（分析）

「思う」「どちらかと言えば思う」を合わせた割合は、通学区域を選択した新小学1年生の保護者が75.9%、新中学1年生の保護者が76.4%となっている。一方、通学区域外を選択した新小学1年生の保護者は94.8%、新中学1年生の保護者は100%となっており、通学区域を選択した場合と比べ、通学区域外を選択した場合の方が学校選択制に対する満足度が高い。

②あなたのお子さんが卒業した小学校について満足していますか。
【保護者アンケート(新中学1年生):問19】<1つだけ回答>



【主な理由】(自由記載一部抜粋)

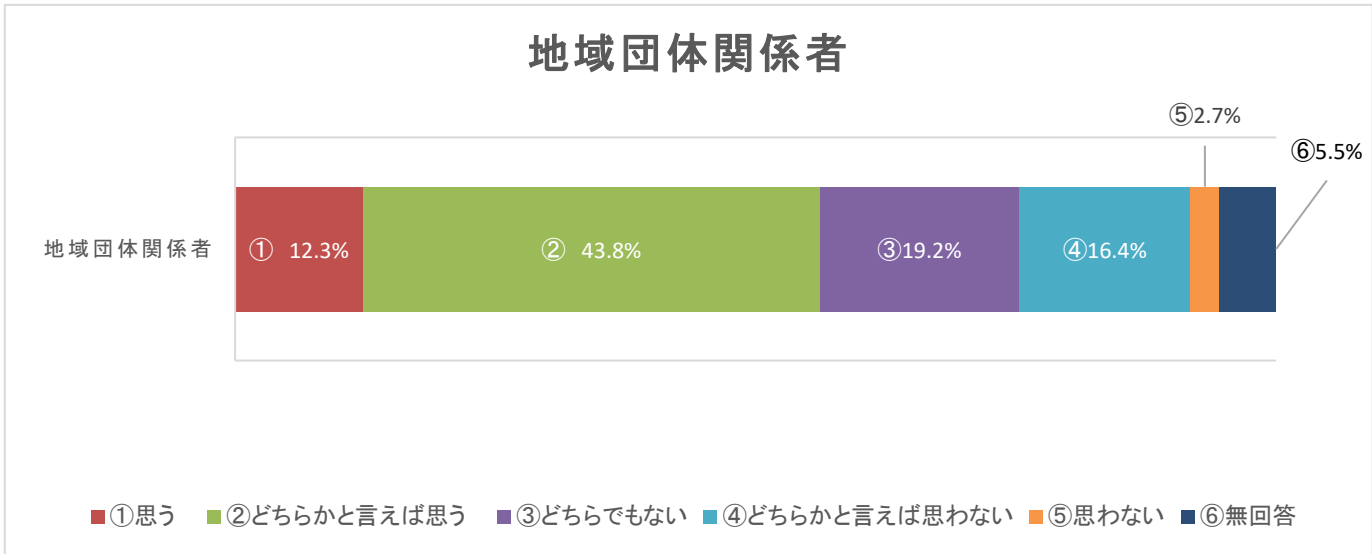
- 「満足している」「ある程度満足している」(記載件数全101件)
- 生徒のことをよく見て、よく考えてくれていると思います。保護者も気軽にお話しできる環境だと思いますので、安心しておまかせできる。
 - 情報発信がしっかりしており、特に昨年からは分かっている範囲での情報をこまめにメールで連絡してくれる。子供も、楽しく通学していた。
 - 地域活動まで、幅を広げていた(盆踊り等)ので、学年の違う子供達とも仲良くしていた(充実していた)。

(分析)

通学区域外の小学校を卒業した場合(学校選択制・指定校変更)は「満足している」と「ある程度満足している」を合わせた割合が100%となっている。また、通学区域の小学校を卒業した場合は、「満足している」と「ある程度満足している」を合わせた割合が通学区域外の小学校を卒業した場合と比べると低いものの、92.0%とかなり高い割合となっている。

③学校選択制は、大阪市の子どもや保護者、大阪市の学校教育にとって良い制度だと思いますか。

【地域団体関係者アンケート:問6】<1つだけ回答>



【主な理由】（自由記載一部抜粋）

○ 「思う」（記載件数全9件）

- ・選択肢があることは良いことだと思う。またいじめなどの都合で自分の校区の学校に行きたくない子供も少なからずいると思うのでその様な対応の為に良い制度ではないかと思う。
- ・学校選択を自分でしたことにより、責任を持ってPTAに参加しようと思える。
- ・学校方針や部活動等、選択できる制度であるため。

○ 「どちらかと言えば思う」（記載件数全24件）

- ・子ども・保護者にニーズは様々であり、そのニーズに対応することが可能になること。
- ・導入によって選択肢が広がり、学校について考察するきっかけとなることが良いのではないか。
- ・子どもや保護者の選択の幅が広がり、例えばあるクラブ活動が盛んな学校を目指したいなどと思ったとき、希望に向けて学習意欲も高まったりする。

○ 「どちらでもない」（記載件数全9件）

- ・指定の学校より近くに他校がある場合には良いと思うが、学校選択制で入学した学校でトラブルがあった時には他へ転校が可能かどうか不安。
- ・私自身、この制度を利用した方とあまり話をしたことが無く、制度の良し悪しは判断できません。

○ 「どちらかと言えば思わない」（記載件数全9件）

- ・地域の人とはどの子供が他の地域の子供かわからない。親密感がない。
- ・子供の多い地域には益々子供が増えてゆくような気がします。多い方が競争力も高まり、少ないと競争力が低くなるような気がします。
- ・時代なのかと感じますが、自分の地域に合った学校づくりが出来ていると思うので、わざわざ…とは思いません。

○ 「思わない」（記載件数全2件）

- ・登下校の安全がおびやかされている。校区外から来る保護者が見えない。
- ・格差が広がる。

（分析）

「思う」「どちらかと言えば思う」を合わせた割合は5割を超えているが、「他の地域の子どもかわからない」「登下校の安全がおびやかされている」など地域ならではの安全を心配する声もある。

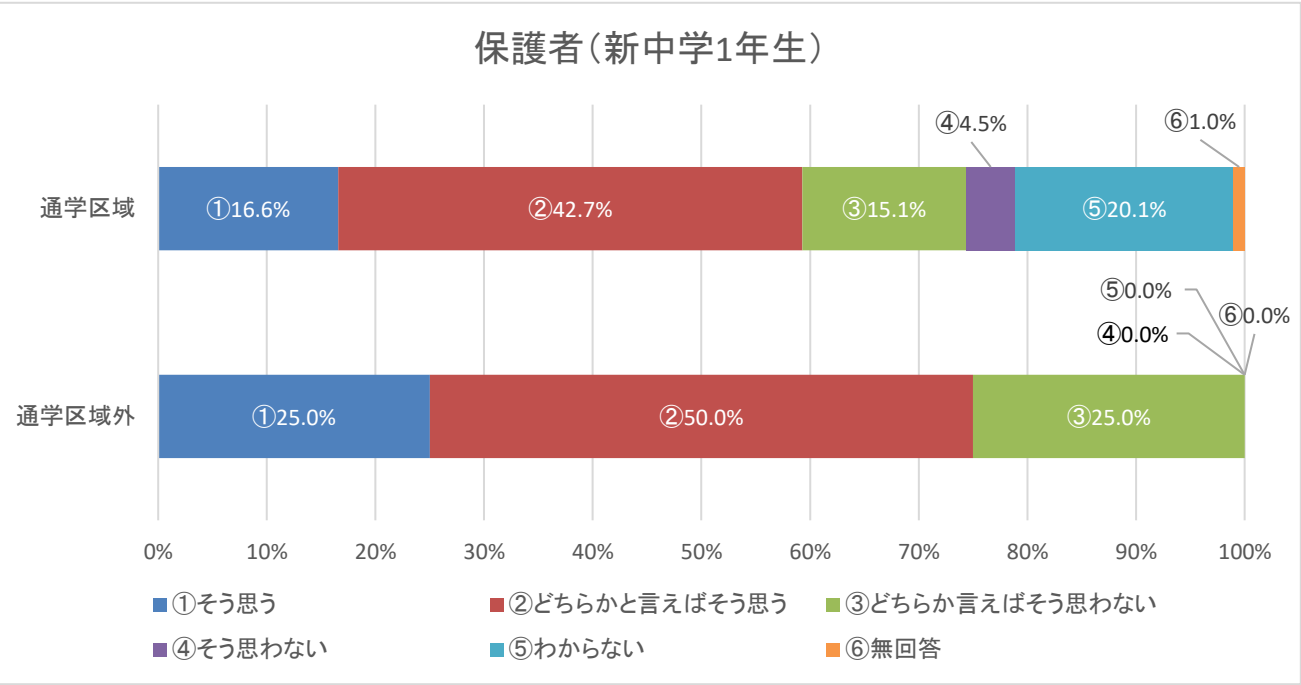
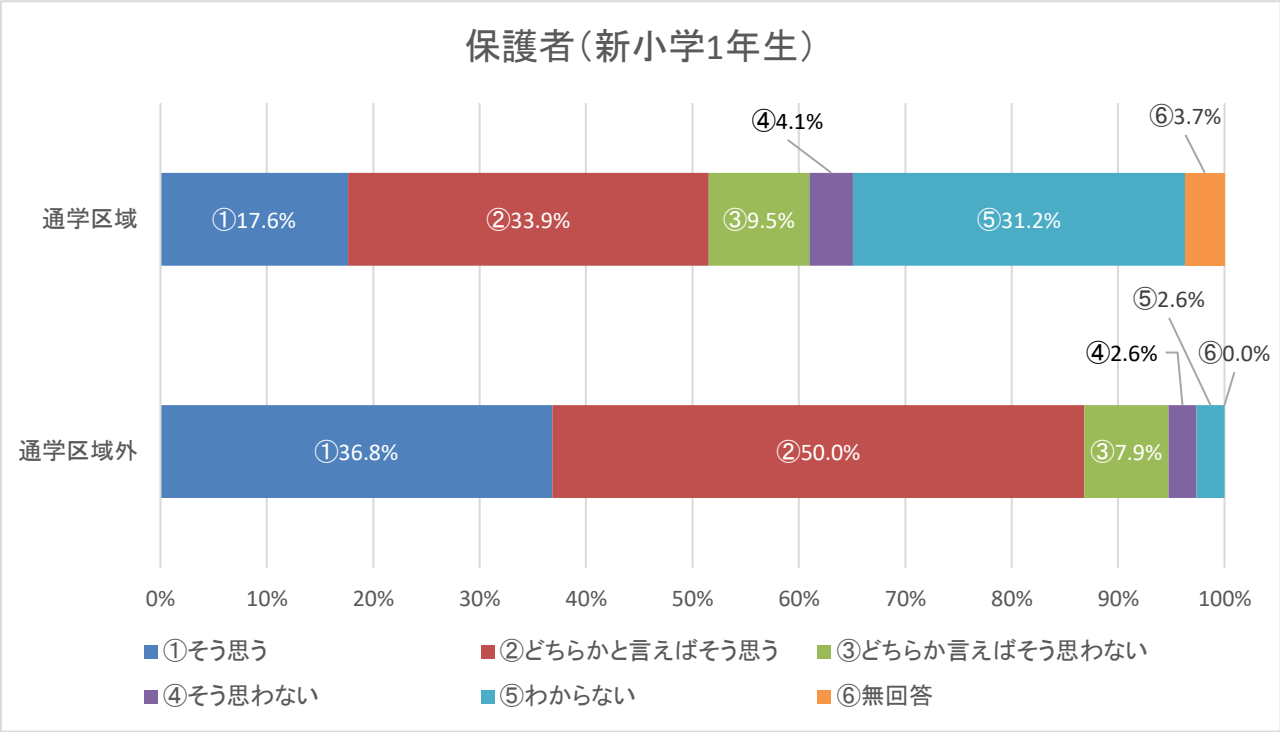
【視点①総括】

学校選択制が良い制度かどうかという質問に肯定的な回答をした保護者は7割を超え、特に通学区域外を選択した保護者ほど良い制度であると考えている割合は高い。また、卒業した小学校の満足度はほとんどの保護者が満足しており、特に通学区域外を選択した場合は100%満足している。一方、地域団体関係者について、学校選択制が良い制度であるかという質問に対しては、肯定的な回答が保護者よりも低いものの5割を超えている。これらの結果を総合的に分析すると、福島区での学校選択制の制度は肯定的に受け入れられている。

【視点②】子どもや保護者が意見を述べ、学校を選ぶことができるか。

①学校選択制によって、子どもや保護者が意見を述べ、学校を選ぶことができますか。

【保護者アンケート(新小学1年生):問18、保護者アンケート(新中学1年生):問22】<1つだけ回答>

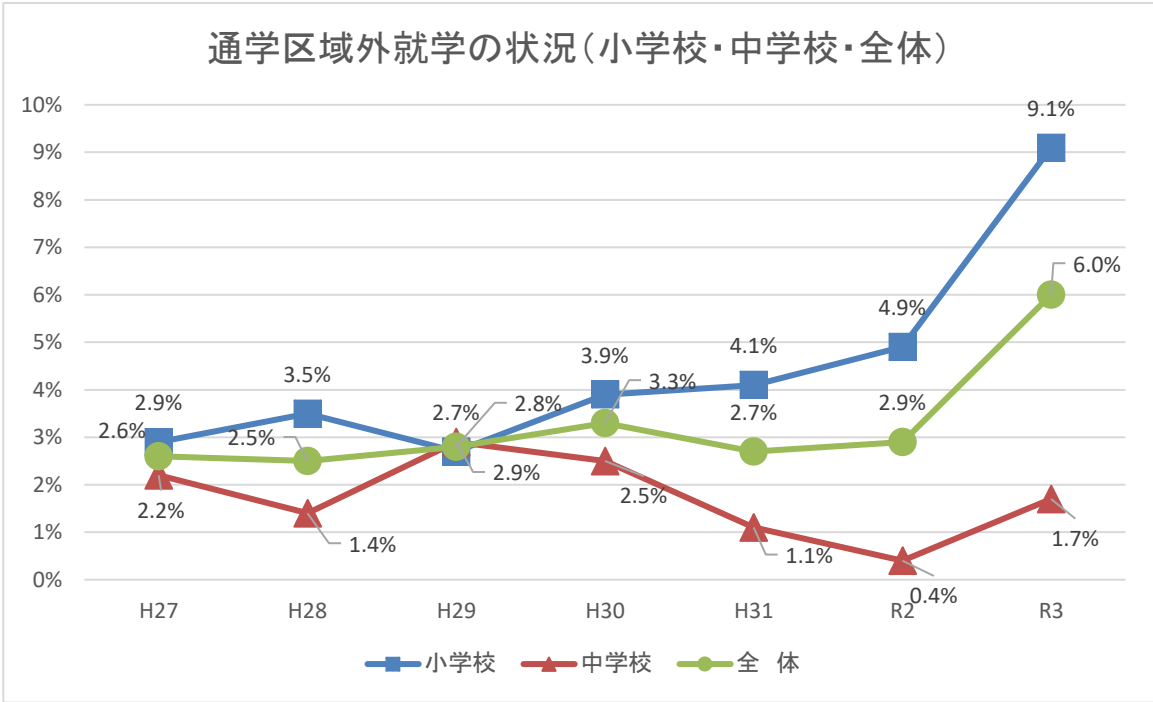


(分析)

「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」を合わせた割合は、通学区域を選択した新小学1年生の保護者が51.5%、新中学1年生の保護者が59.3%となっている。一方、通学区域外を選択した新小学1年生の保護者は86.8%、新中学1年生の保護者は75.0%となっており、特に通学区域外を選択する場合は、子どもや保護者が意見を述べて学校を選ぶことができていると感じている割合が高い。

②学校選択制による通学区域外の学校への就学の状況

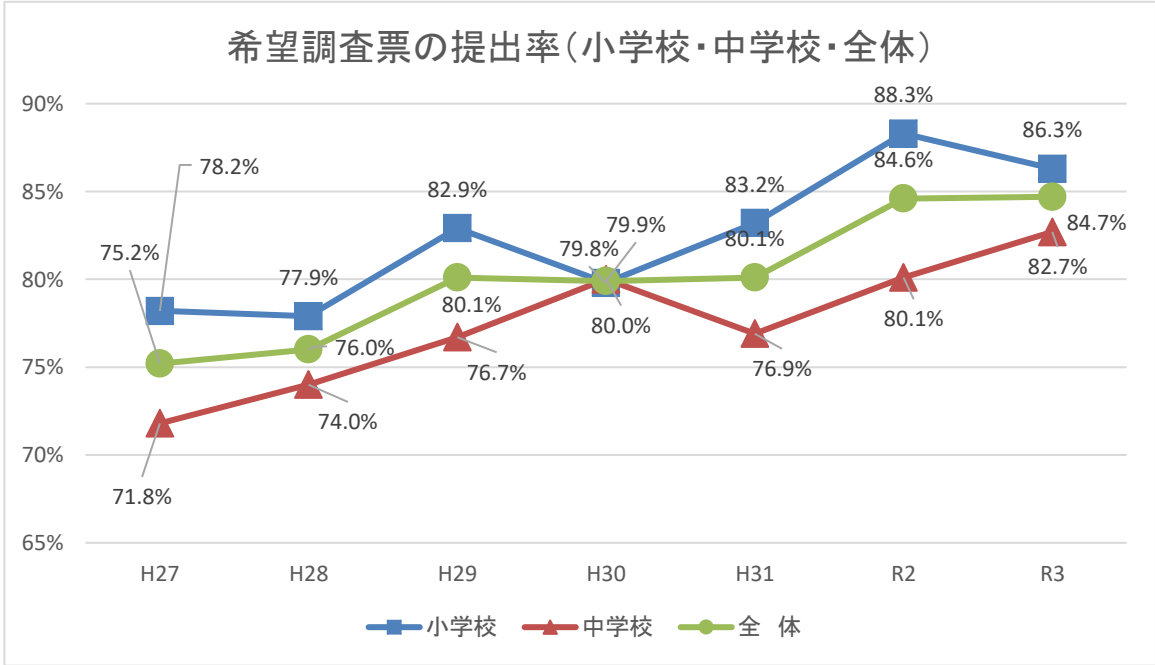
【運用状況データの活用】
大阪市立の小学校・中学校に入学した者のうち、学校選択制で通学区域外の学校に入学した者の割合。



(分析)
学校選択制による通学区域外の学校への就学の状況は、全体的に制度利用率が増加の傾向にある。小中学校別に分析すると、小学校が平成27年度2.9%から令和3年度に約3倍の9.1%となって増えていることにに対し、中学校は年度により多少増減するが、一定の割合で制度が利用されている。

③希望調査票の提出率

【運用状況データの活用】
大阪市立の小学校・中学校に入学した者のうち、学校選択制の希望調査票を提出した者の割合。



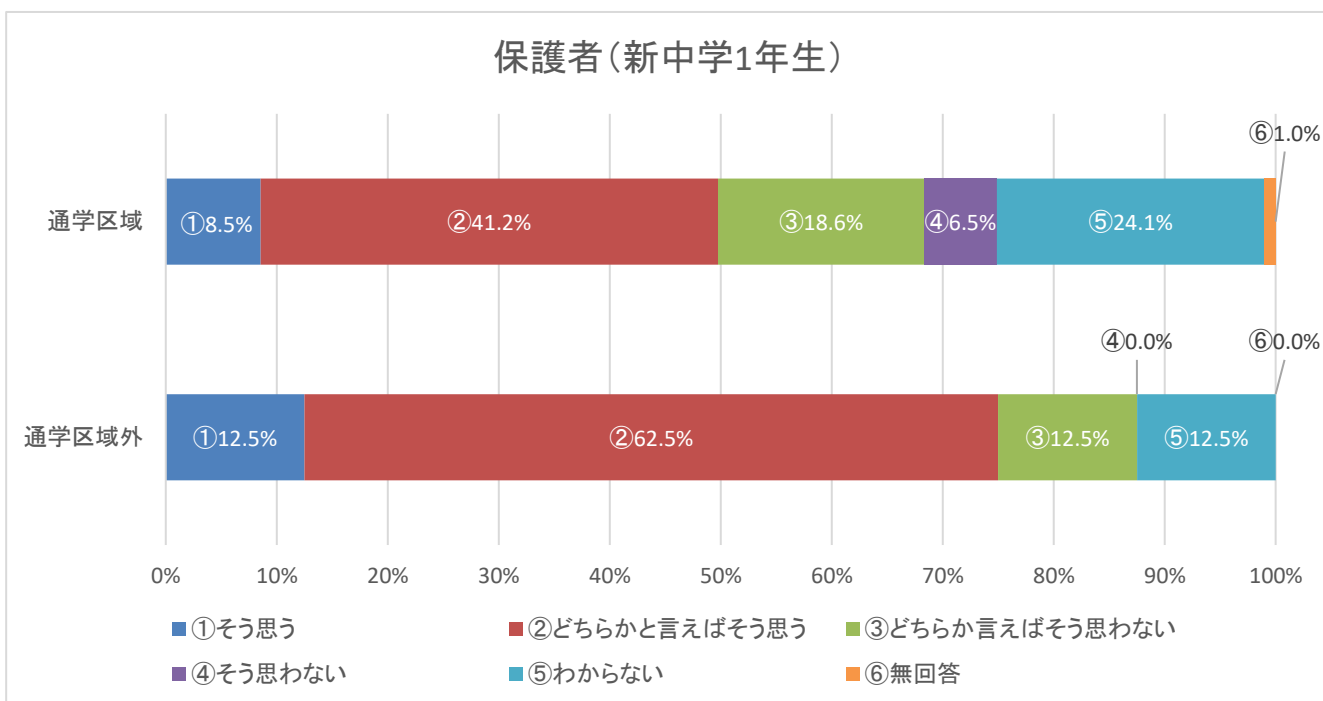
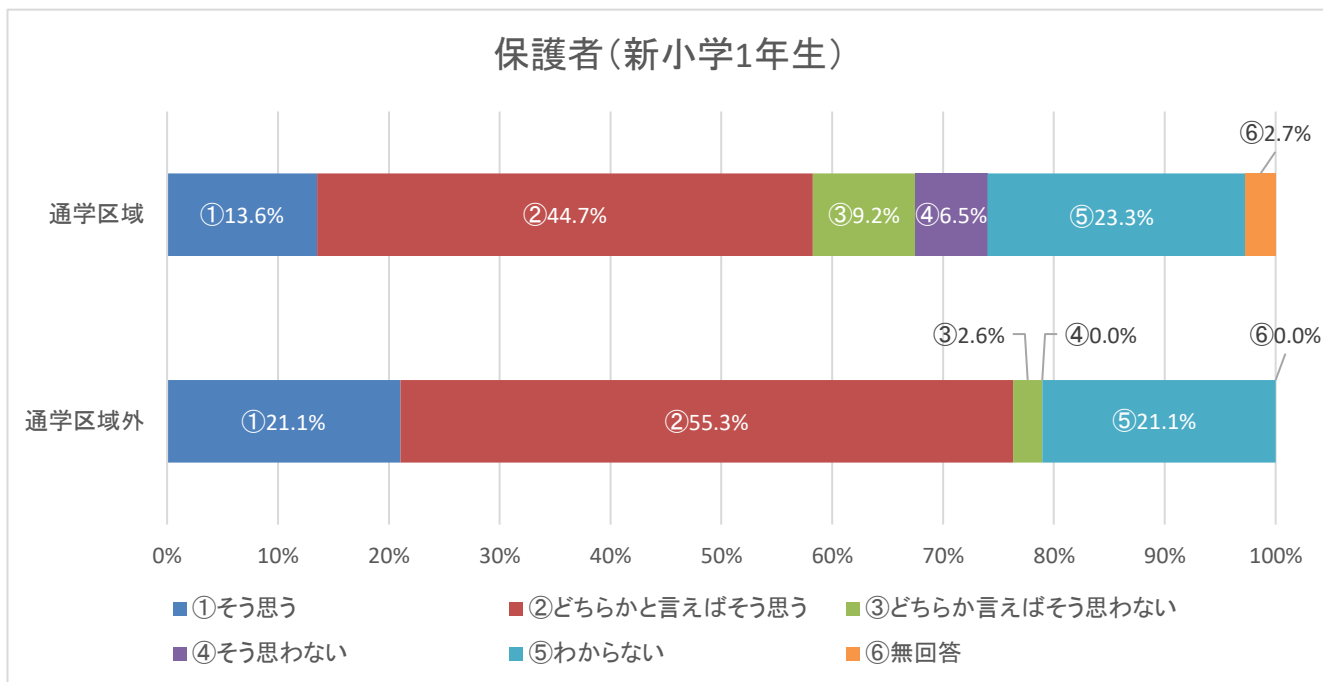
(分析)
学校選択制の希望帳票提出状況は、平成27年度が小学校で78.2%、中学校で71.8%、全体で75.2%であったが、令和3年度には小学校で86.3%、中学校で82.7%、全体で84.7%となり、提出率は上昇傾向となっている。

【視点②総括】
子どもや保護者が意見を述べ選ぶことができていると「思う」「どちらかといえば思う」と感じている保護者は5割を超えており、通学区域外を選択した保護者については7割を超え、肯定的な結果となっている。また、通学区域外への就学について、学校選択制の制度を導入した平成27年度と令和3年度を比較すると、中学校ではほぼ一定の割合ではあるが、小学校では約3倍となっている。希望調査票の提出率についても平成27年度と令和3年度を比較すると小学校、中学校、全体ともに約1割増加し、8割を超える提出があり、学校選択についての意思表示も進んできている。

【視点③】子どもや保護者が学校教育に深い関心を持つようになったか。

①学校選択制によって、子どもや保護者が学校教育に深い関心を持つようになったと思いますか。

【保護者アンケート(新小学1年生):問19、保護者アンケート(新中学1年生):問23】<1つだけ回答>

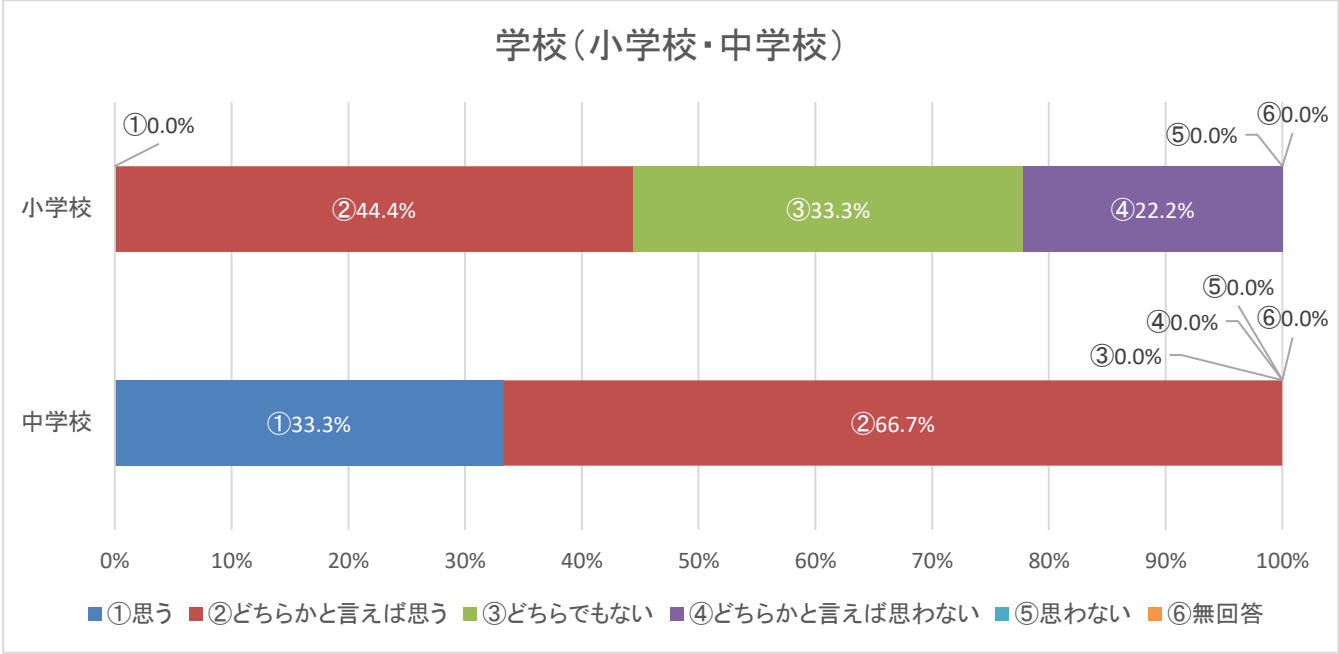


(分析)

「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」を合わせた割合は、通学区域を選択した新小学1年生の保護者が58.3%、新中学1年生の保護者が49.7%となっている。一方、通学区域外を選択した新小学1年生の保護者は76.4%、新中学1年生の保護者は75.0%となっており、通学区域外を選択する場合が通学区域を選択した場合を上回っている。

②学校選択制によって、あなたの学校において子どもや保護者が学校教育に深い関心を持つようになったと思いますか。

【学校状況調査:問1】<1つだけ回答>



(分析)

「思う」「どちらかといえば思う」を合わせて、小学校で44.4%、中学校で100%の学校が肯定的な回答をしている。また、「どちらでもない」という回答は、小学校で33.3%となっている。

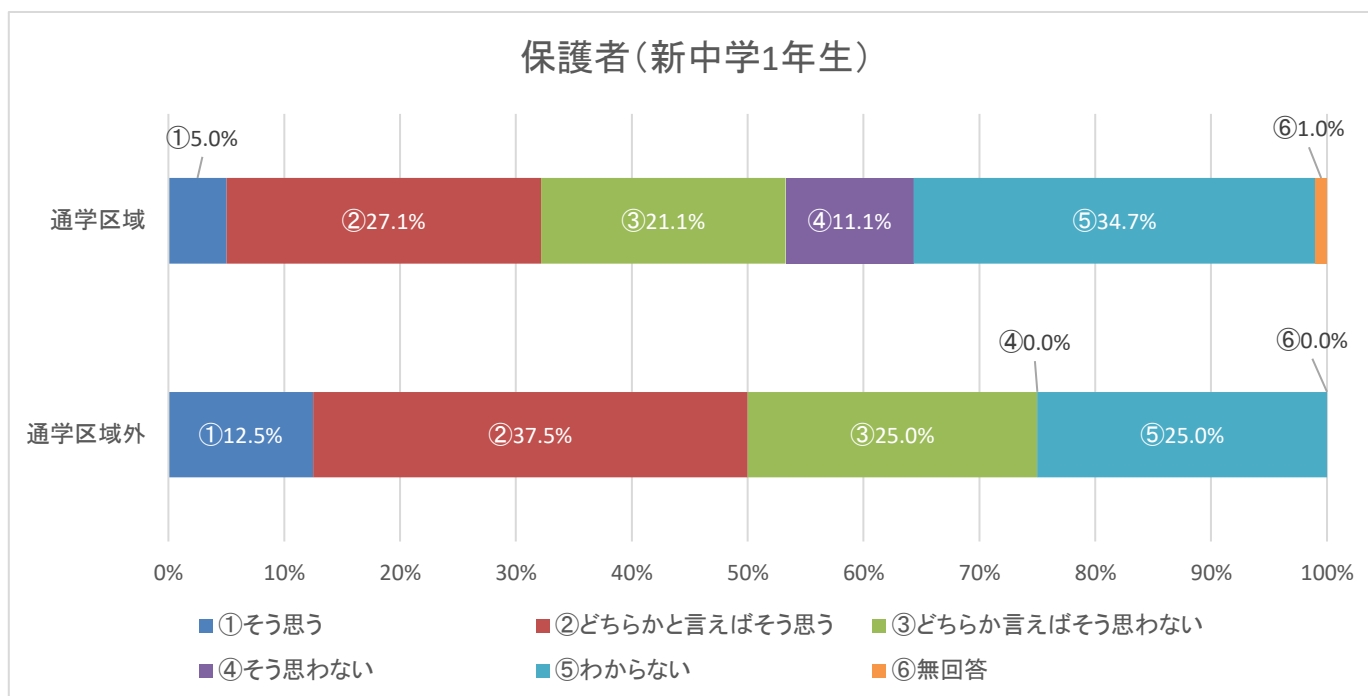
【視点③総括】

学校選択制によって学校教育に深い関心を持つようになったかという質問に対し、通学区域の学校を選択した保護者は、小学校で約6割、中学校で約5割、通学区域外を選択した保護者は、小学校、中学校ともに7割を超える状況となっている。また、学校側では、小学校で約4割、中学校で100%学校選択制によって、子どもや保護者が学校教育に関心を持っていると感じている。

【視点④】 特色ある学校づくりが進んだか。

①学校選択制によって、特色ある学校づくりが進んだと思いますか。

【保護者アンケート(新中学1年生):問24】<1つだけ回答>

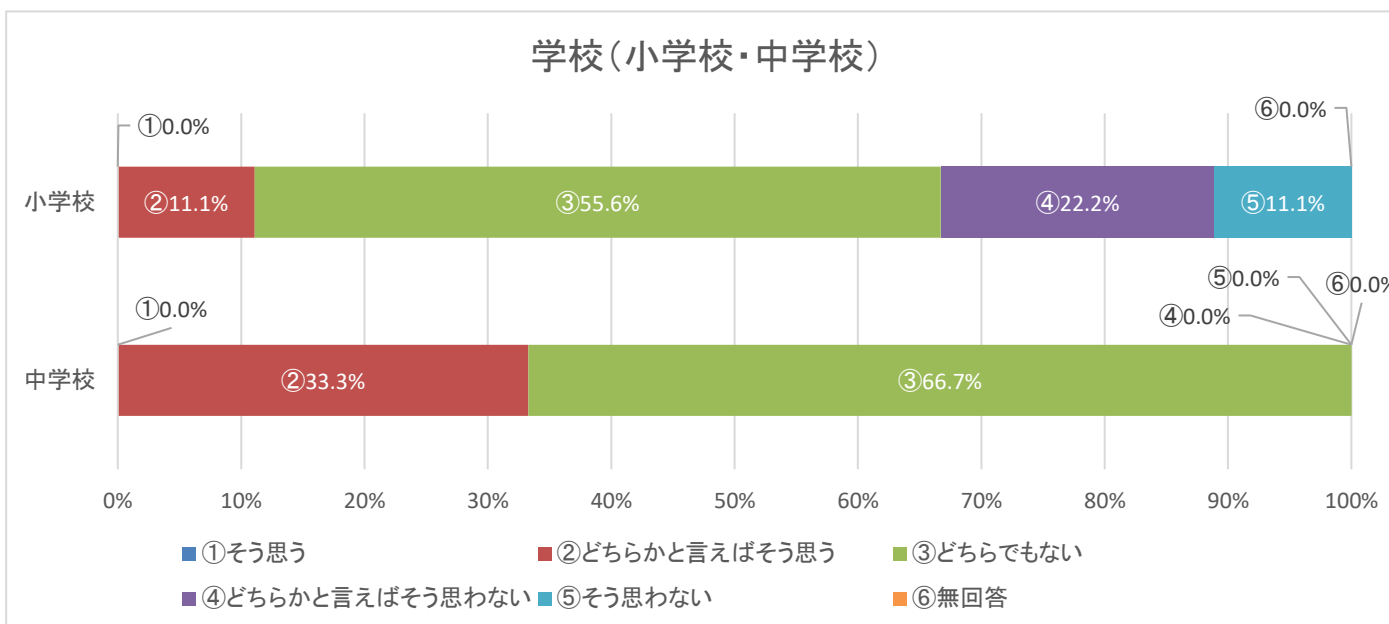


(分析)

「と思う」「どちらかと言えば思う」を合わせた割合は、通学区域を選択した保護者が32.1%、通学区域外を選択した保護者は50.0%が肯定的な回答をしている。
 「そう思わない」「どちらかと言えばそう思わない」と回答した保護者は、通学区域を選択した保護者で32.2%、通学区域外を選択した保護者で25.0%となっている。

②学校選択制によって、あなたの学校における特色ある学校づくりが進んだと思いますか。

【学校状況調査:問3】<1つだけ回答>



(分析)

「と思う」「どちらかと言えば思う」を合わせて、小学校は11.1%、中学校は33.3%が肯定的な回答をしている。「そう思わない」「どちらかと言えばそう思わない」と回答した小学校は33.3%、中学校では0%となっている。

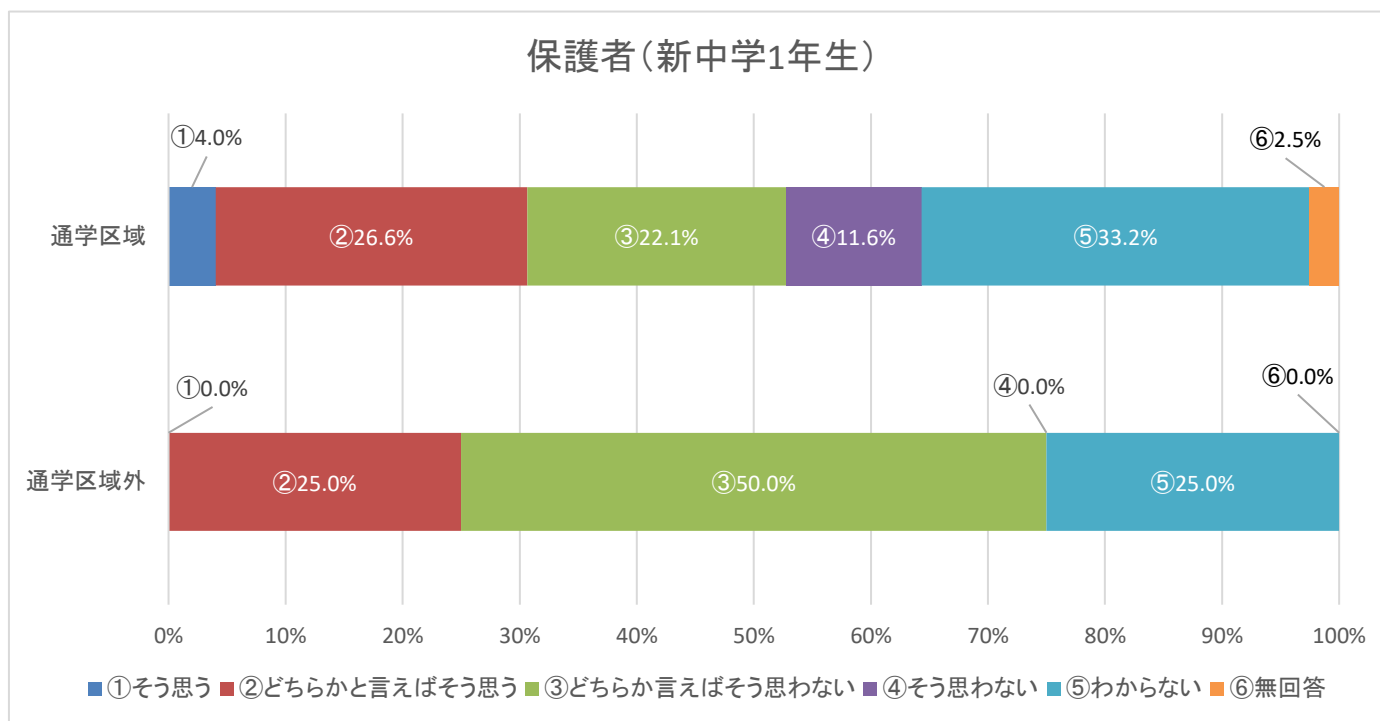
【視点④総括】

通学区域を選択した保護者の3割以上、通学区域外を選択した保護者の5割が、学校選択制によって特色ある学校づくりが進んだと回答しているが、通学区域を選択した保護者、通学区域外を選択した保護者の約3割が「そう思わない」「どちらかと言えばそう思わない」と回答している。
 また、小学校では約1割、中学校では3割が学校選択制によって特色ある学校づくりが進んだと回答しているが、小学校、中学校の約6割が「どちらでもない」と回答している。また、小学校では約3割が「そう思わない」「どちらかと言えばそう思わない」と回答している。

【視点⑤】開かれた学校づくりが進んだか。

①学校選択制によって、学校における保護者や地域住民の参加が進むような取り組み（授業参観、学校公開など）が充実してきたと思いますか。

【保護者アンケート(新中学1年生)：問25】<1つだけ回答>

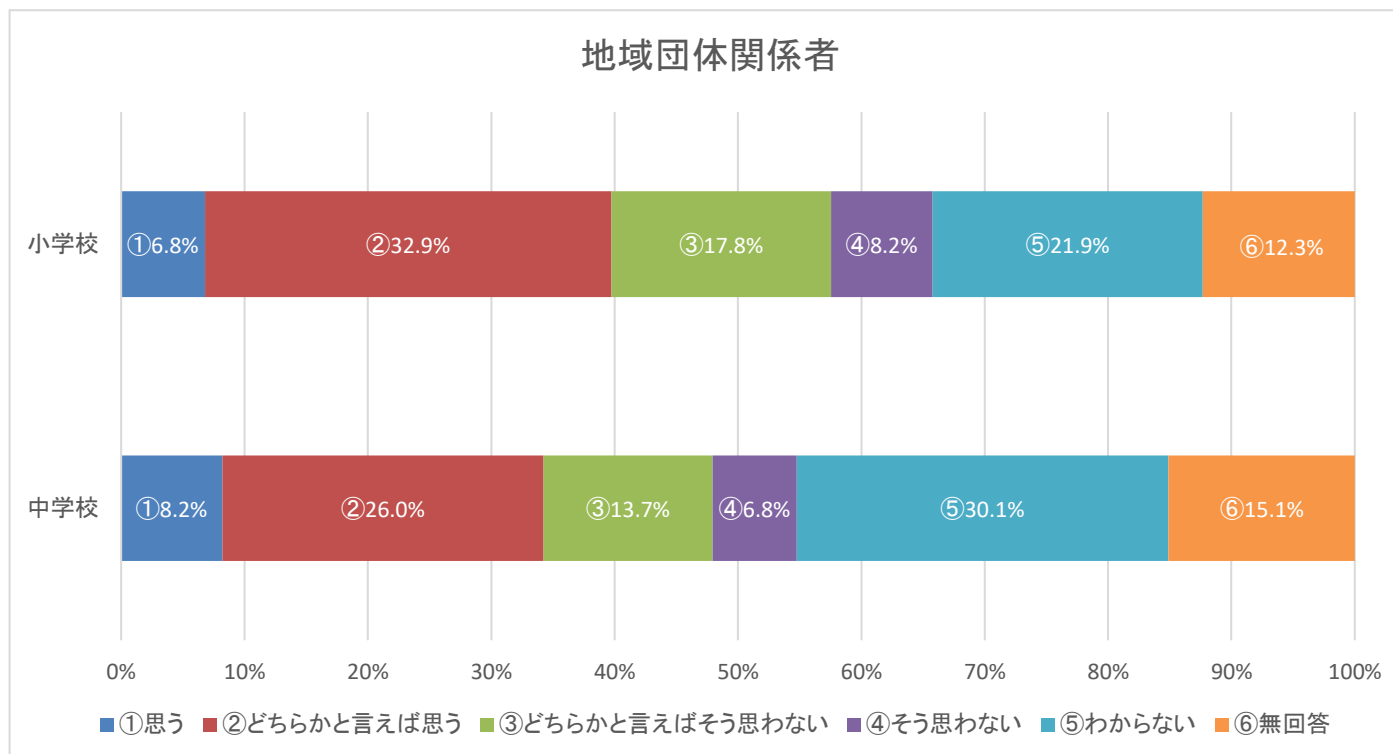


(分析)

「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」を合わせた割合は、通学区域を選択した保護者が30.6%、通学区域外を選択した保護者は25.0%が肯定的な回答をしている。
「そう思わない」「どちらかと言えばそう思わない」と回答した保護者は、通学区域を選択した保護者で33.7%、通学区域外を選択した保護者で50.0%となっている。

②学校選択制によって、あなたの地域の学校における保護者や地域住民の参加が進むような取り組み（授業参観、学校公開等）が充実してきたと思いますか。

【地域団体関係者：問1】<1つだけ回答>

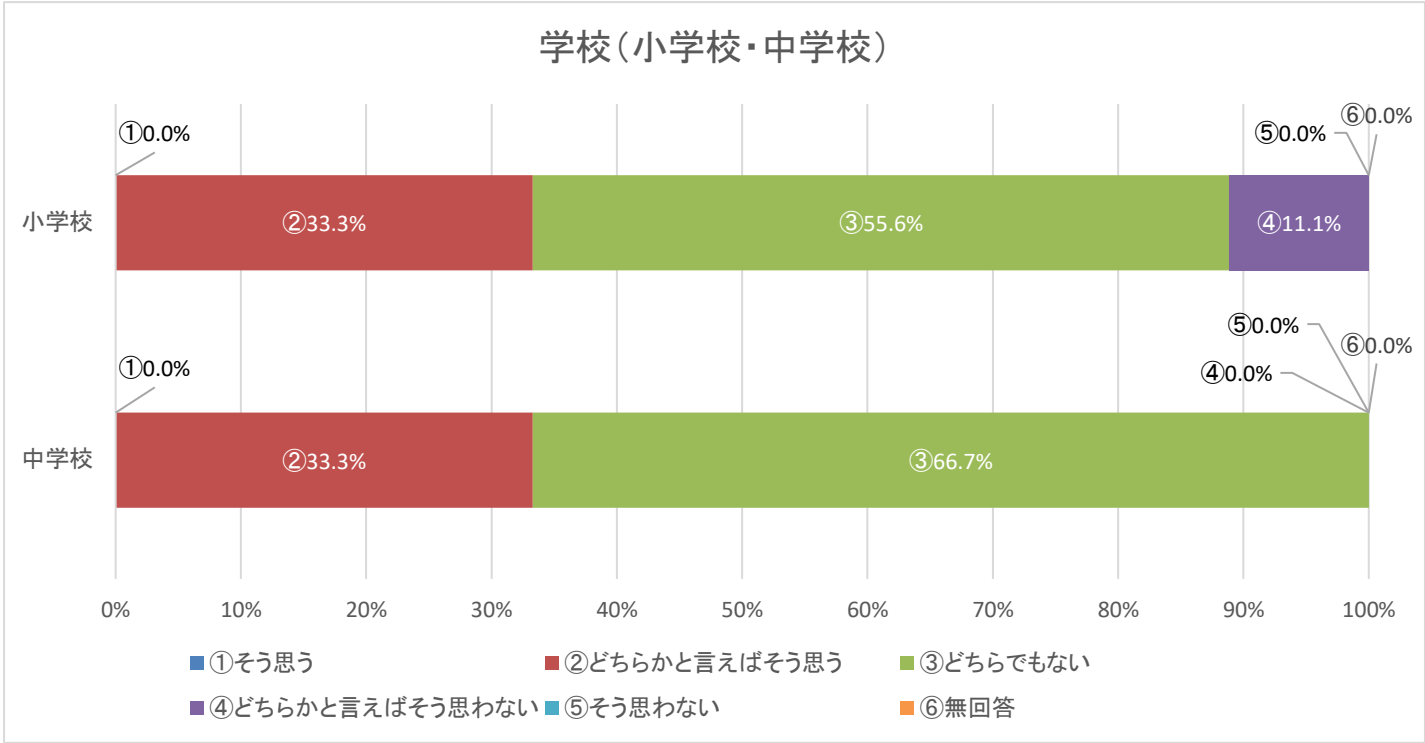


(分析)

「思う」「どちらかと言えば思う」を合わせて、小学校は39.7%、中学校は34.2%が肯定的な回答をしている。
「そう思わない」「どちらかと言えばそう思わない」との回答は、小学校で26.0%、中学校で20.5%となっている。

③学校選択制によって、あなたの学校における保護者や地域住民の参加が進むような取り組み（授業参観、学校公開等）が充実してきたと思いますか。

【学校状況調査：問5】<1つだけ回答>

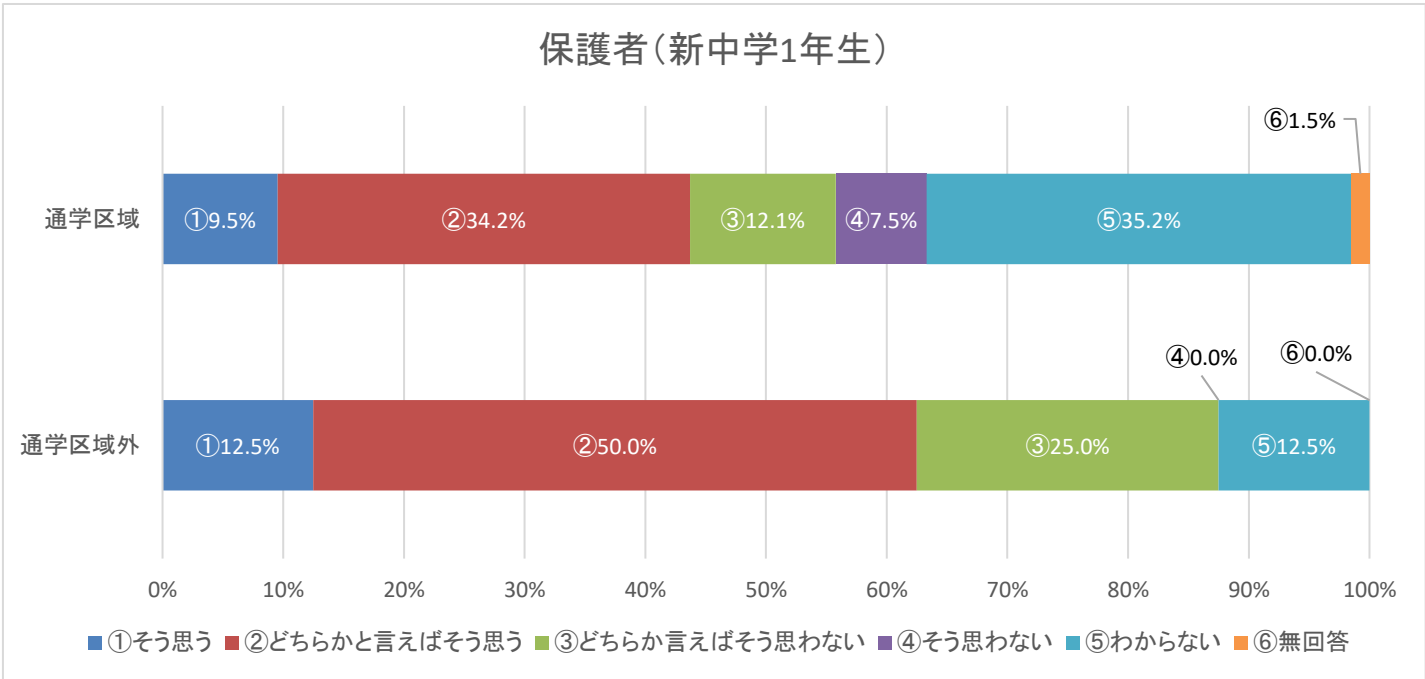


（分析）

「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」を合わせて、小学校、中学校ともに33.3%が肯定的な回答をしている。「どちらかと言えばそう思わない」との回答は、小学校で11.1%となっている。

④学校選択制によって、学校における情報発信（学校だより、ホームページの更新など）が充実してきたと思いますか。

【保護者アンケート（新中学1年生）：問26】<1つだけ回答>

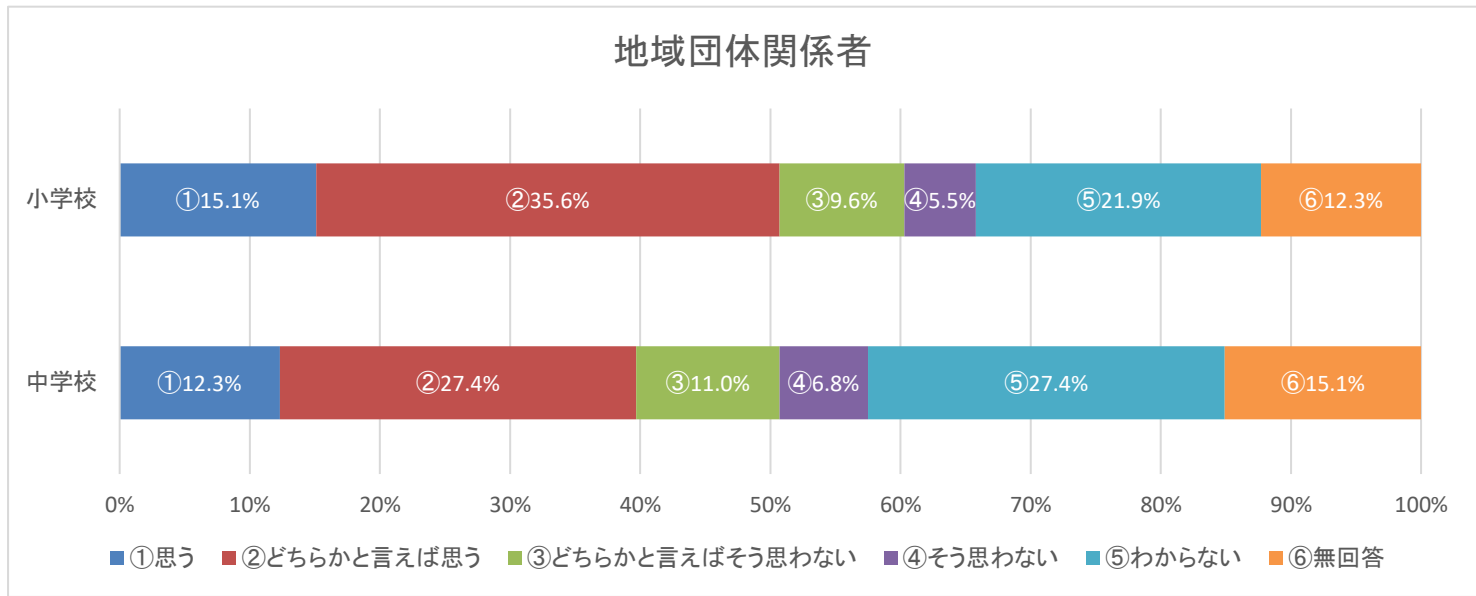


（分析）

「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」を合わせた割合は、通学区域を選択した保護者が43.7%、通学区域外を選択した保護者は62.5%が肯定的な回答をしている。「そう思わない」「どちらかと言えばそう思わない」と回答した保護者は、通学区域を選択した保護者で19.6%、通学区域外を選択した保護者で25.0%となっている。

⑤学校選択制によって、あなたの地域の学校における情報発信（学校だより、ホームページの更新など）が充実してきたと思いますか。

【地域団体関係者：問2】<1つだけ回答>

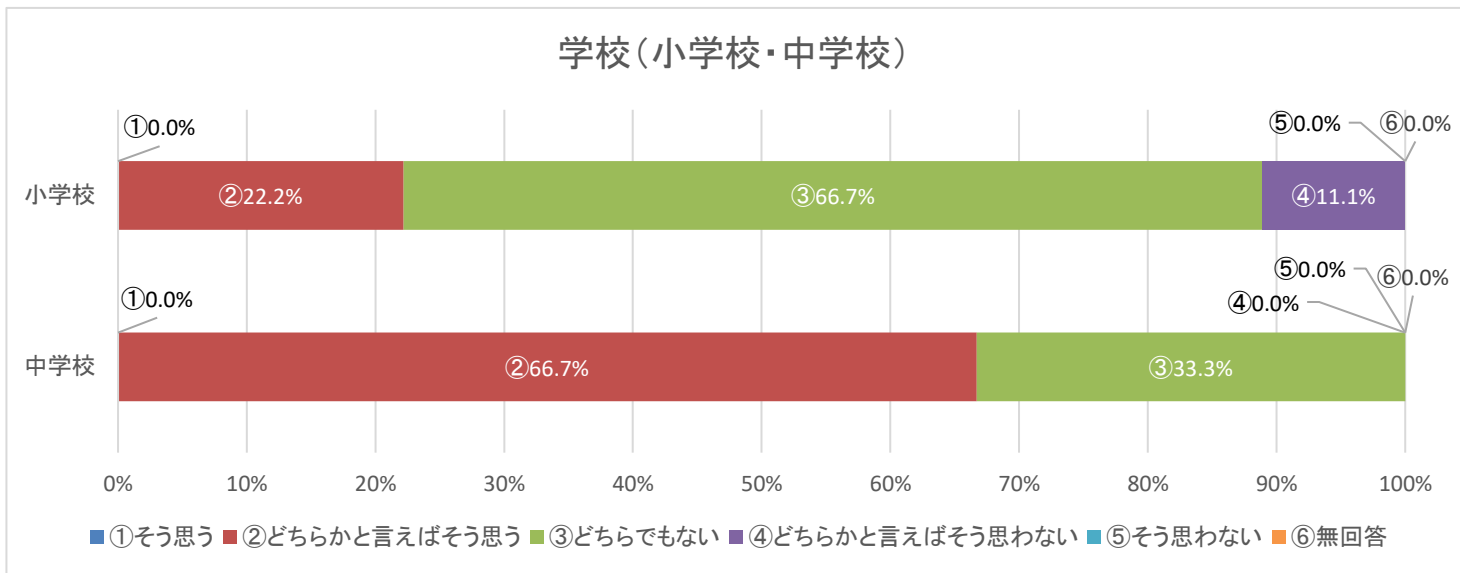


（分析）

「思う」「どちらかと言えば思う」を合わせて、小学校は50.7%、中学校は39.7%が肯定的な回答をしている。「そう思わない」「どちらかと言えばそう思わない」との回答は、小学校で15.1%、中学校で17.8%となっている。

⑥学校選択制によって、あなたの学校における情報発信（学校だより、ホームページの更新など）が充実してきたと思いますか。

【学校状況調査：問7】<1つだけ回答>



（分析）

「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」を合わせて、小学校は22.2%、中学校は66.7%が肯定的な回答をしている。「どちらかと言えばそう思わない」との回答は、小学校で11.1%となっている。

【視点⑤総括】

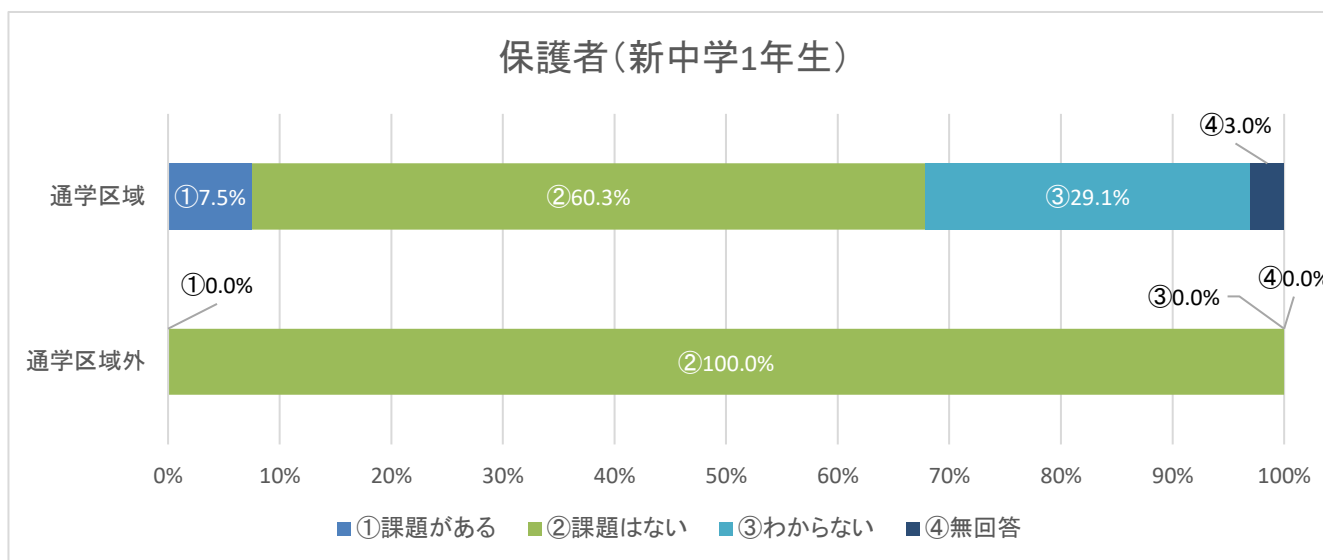
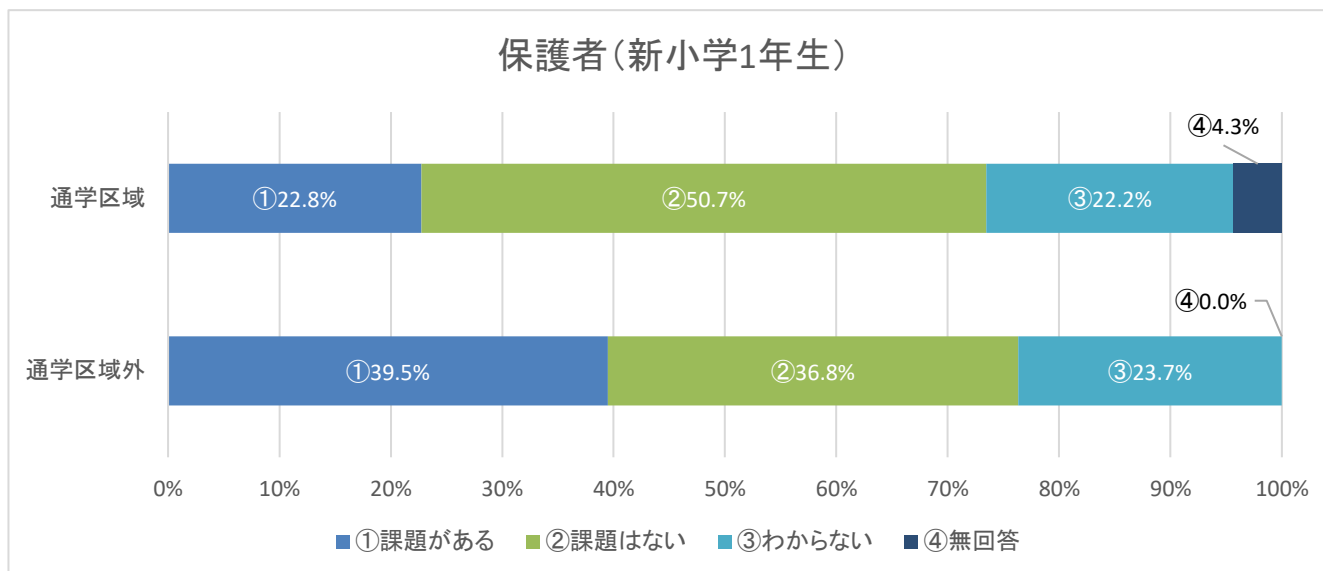
学校における保護者や地域住民の参加が進むような取り組み（授業参観、学校公開など）について、「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」を合わせて、通学区域を選択した保護者の3割以上、通学区域外を選択した保護者の2割以上、地域団体関係者の3割以上、学校の3割以上が学校選択制によって充実してきた回答をしているが、通学区域を選択した保護者の3割以上、通学区域外を選択した保護者の5割、地域団体関係者の2割以上、小学校の約1割が「どちらかと言えばそう思わない」「思わない」と回答している。

また、通学区域を選択した保護者の4割以上、通学区域外を選択した保護者の6割以上、地域団体関係者の4～5割以上（小学校約5割、中学校約4割）、小学校の2割以上、中学校の6割以上が学校選択制によって情報発信が充実してきた回答をしているが、通学区域を選択した保護者の約2割、通学区域外を選択した保護者の2割以上、地域団体関係者の1割以上、小学校の約1割が「どちらかと言えばそう思わない」「思わない」と回答している。

【視点⑥】 児童生徒の通学の安全に課題が生じていないか

①あなたのお子さんの通学の安全に課題が生じていると思いますか。

【保護者アンケート(新小学1年生):問15、保護者アンケート(新中学1年生):問15】<1つだけ回答>



【具体的な課題及び改善のアイデア】（自由記載一部抜粋）

○ 「課題がある」新小学1年生（記載件数全98件）

- ・安全に通学するための教育まだ必要だと思います。
- ・通学路に歩道が一切なく、老朽化したブロックのへいなどがあり大変危険。
- ・集団登校が無いのであって欲しい。
- ・現在校区外からの通学なので学校までの付添だが、校区内通学の児童の通学路までの付き添いなら助かります。

○ 「課題がある」新中学1年生（記載件数全14件）

- ・通学路が決まっていないのでどの道で帰ってくるかわからない。
- ・部活動の終了時間がバラバラで、帰宅時間が分からない為、心配になる。

○ 「課題はない」新小学1年生（記載件数全4件）

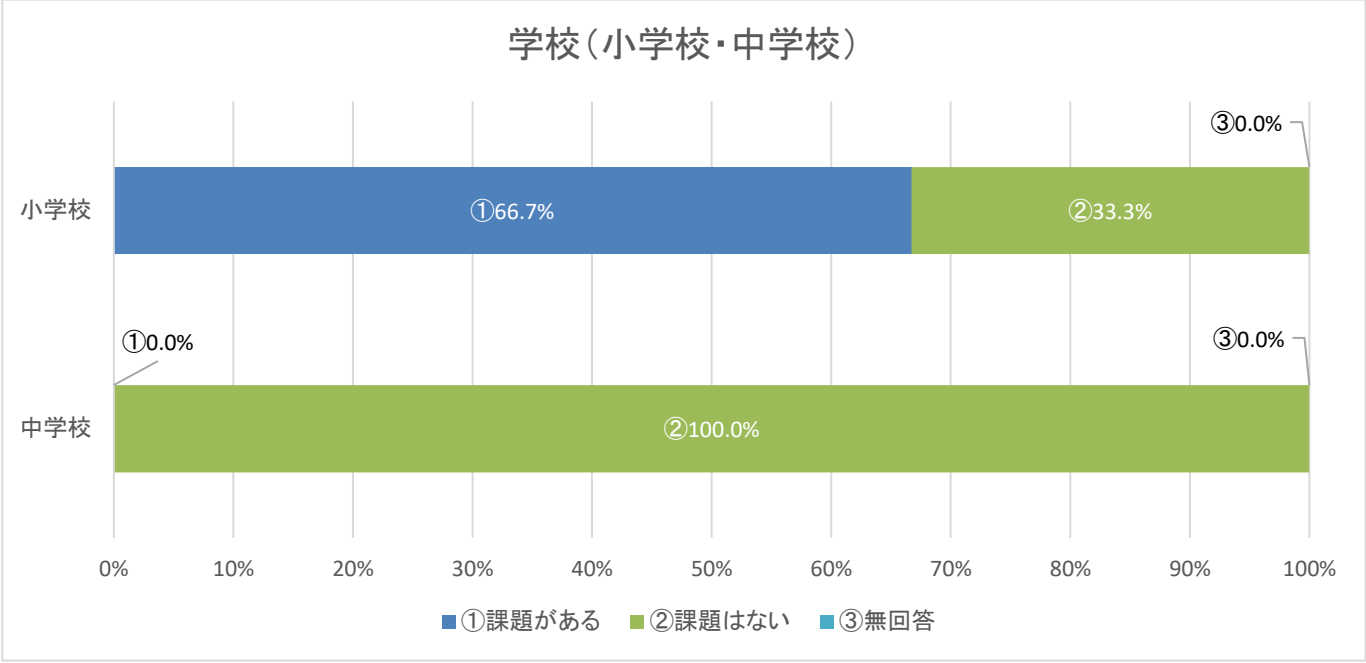
- ・見守り隊の方達のおかげさまで安心して通わせられています。
- ・GPSを個人で持たせたので、課題はないですが、学校に着いたか出たかの確認ができると安心だと保護者で話してます。

（分析）

「課題がある」と回答した割合は、通学区域の小学生保護者で22.8%、中学生保護者で7.5%、通学区域外の小学生保護者で39.5%、中学生保護者では0%となっている。「課題はない」と回答する保護者は、通学区域の小学生保護者は5割以上、中学生は6割以上、通学区域外の小学生保護者で36.8%、中学生保護者では100%となっている。

②あなたの学校において、学校選択制により、通学の安全に課題が生じていますか。

【学校状況調査:問9】 <1つだけ回答>



【具体的な課題事例】（記載件数全7件）

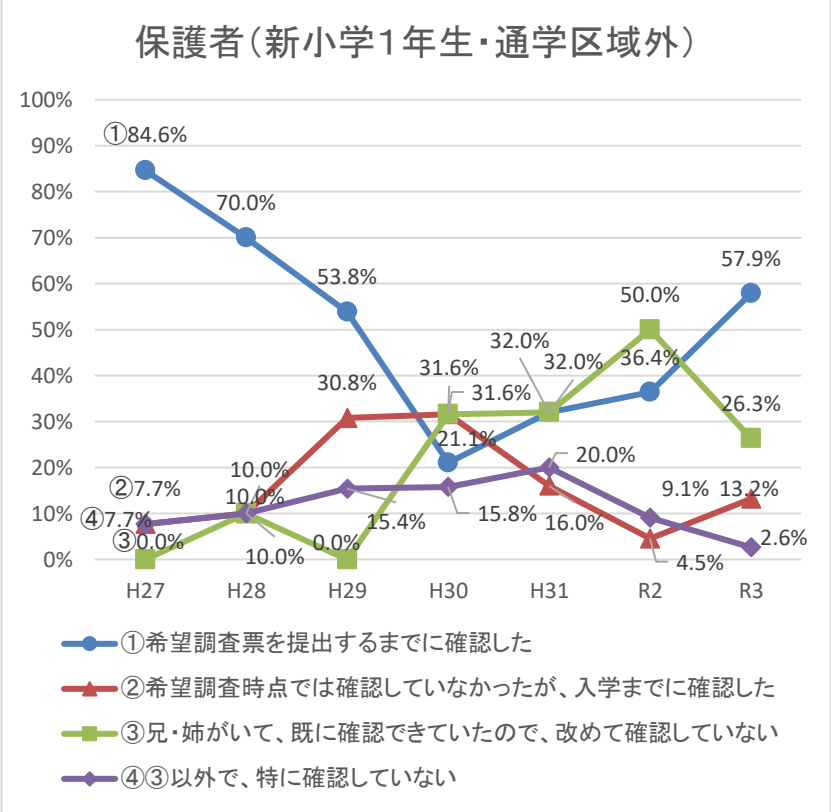
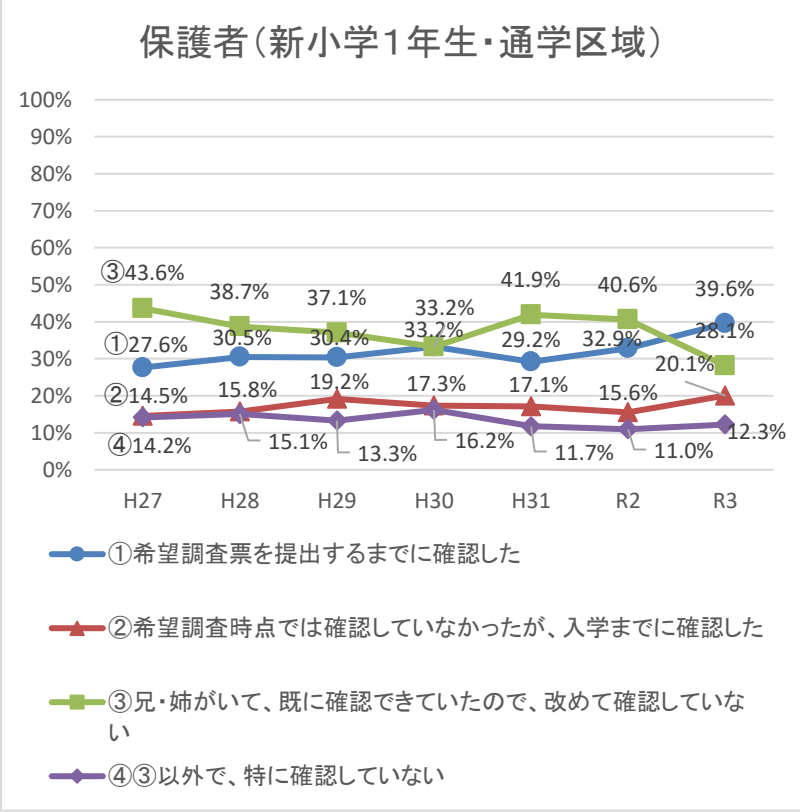
- 学区外の学校を選択することで、児童の登校時の安全確保に対して、支障をきたすことが実状としてある。
- 校区内までの送り迎えをきちんとして頂けない場合があるので、通学の安全が気になる。

（分析）

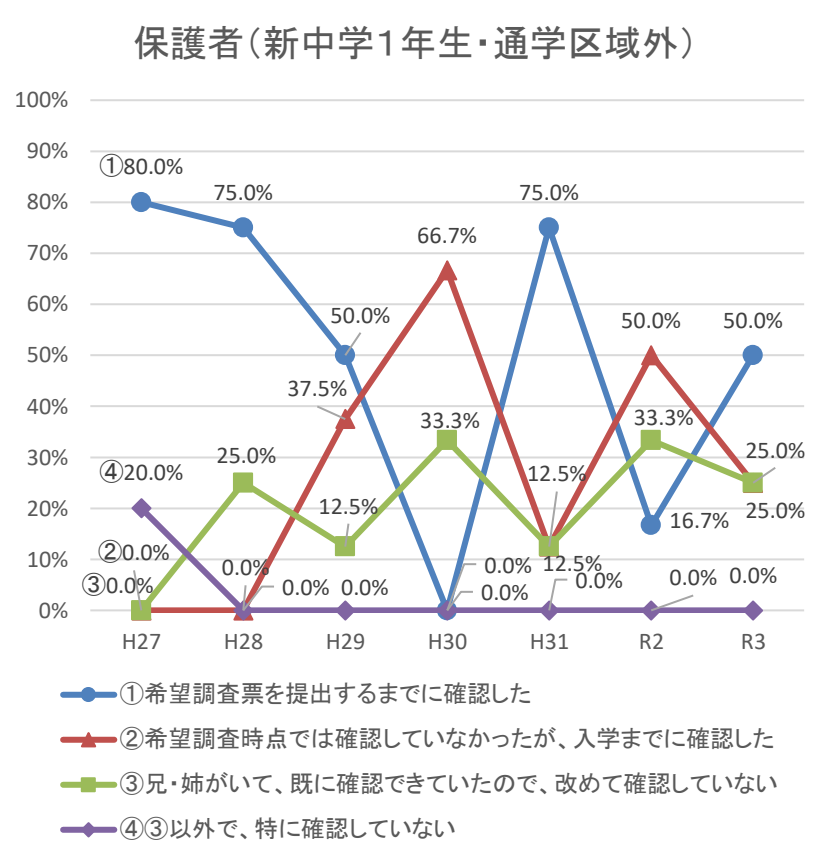
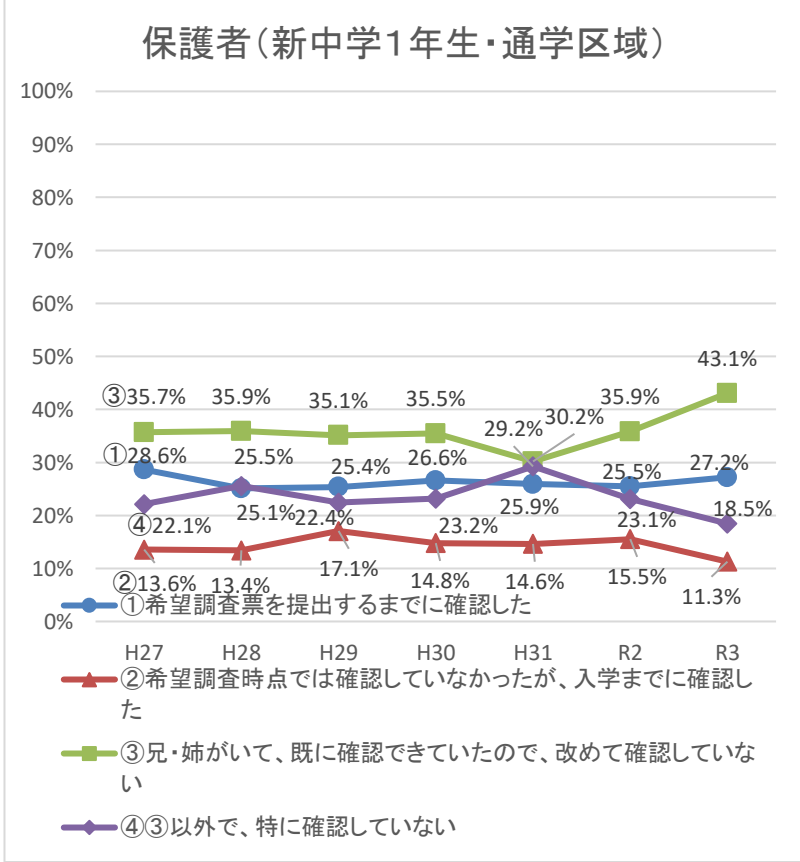
「課題がある」と回答した小学校は66.7%となっている。「課題はない」と回答した小学校は33.3%中学校は100%となっている。

③通学路の安全や通学距離、通学に要する時間等について確認されましたか。
【保護者アンケート(新小学1年生):問6、保護者アンケート(新中学1年生):問6】<1つだけ回答>

<保護者（新小学1年生）>



<保護者（新中学1年生）>



(分析)

通学路の安全や通学距離、時間などについて、通学区域を選択した保護者は「希望調査票を提出するまでに確認した」「兄・姉がいてすでに確認できていたので、改めて確認していない」が新小学1年生の保護者、新中学1年生の保護者ともに約7割を占めている。通学区域外を選択した保護者のほとんどの方はいずれかの方法で確認を済ませる傾向にある。

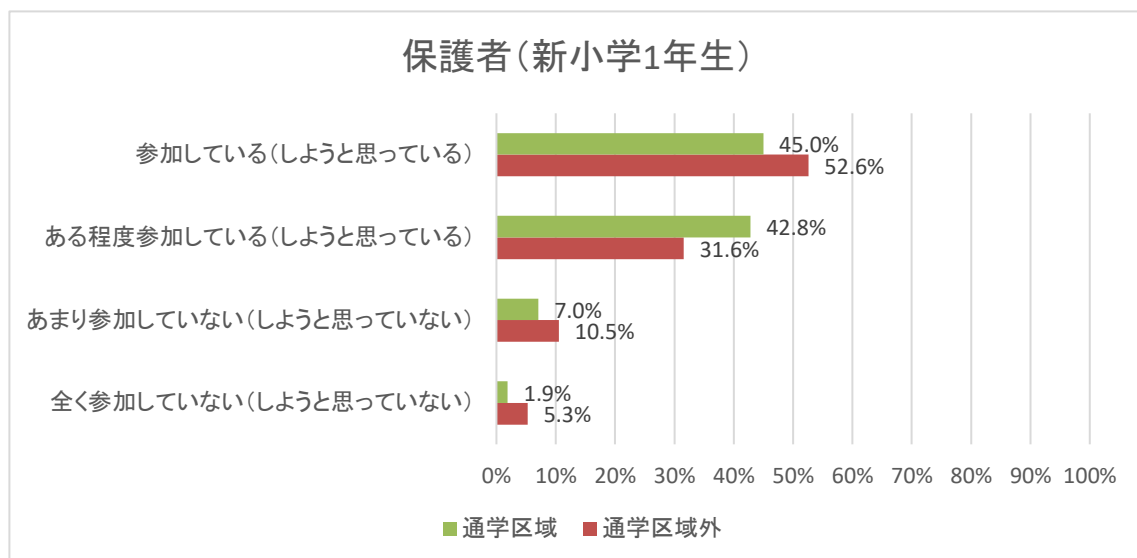
【視点⑥総括】

通学の安全について、通学区域を選択した小学生保護者は2割程度、通学区域外を選択した小学生保護者は4割程度「課題がある」と回答しており、中学生保護者については「課題がある」と回答した保護者は通学区域内外ともにさほど多くはなく、多くの保護者は「課題はない」と回答している。また、小学校では約6割が「課題がある」と回答しているが、中学校では全校で「課題はない」と回答している。

【視点⑦】学校と地域、保護者の連携に課題が生じていないか

①あなたは、お子さんが通っている学校の行事（運動会、授業参観など）や、PTAの活動（親子レクリエーション、登下校の見守りなど）に参加していますか、又は今後参加しようと思っていますか。

【保護者アンケート（新小学1年生）：問13、保護者アンケート（新中学1年生）：問13】＜1つだけ回答＞

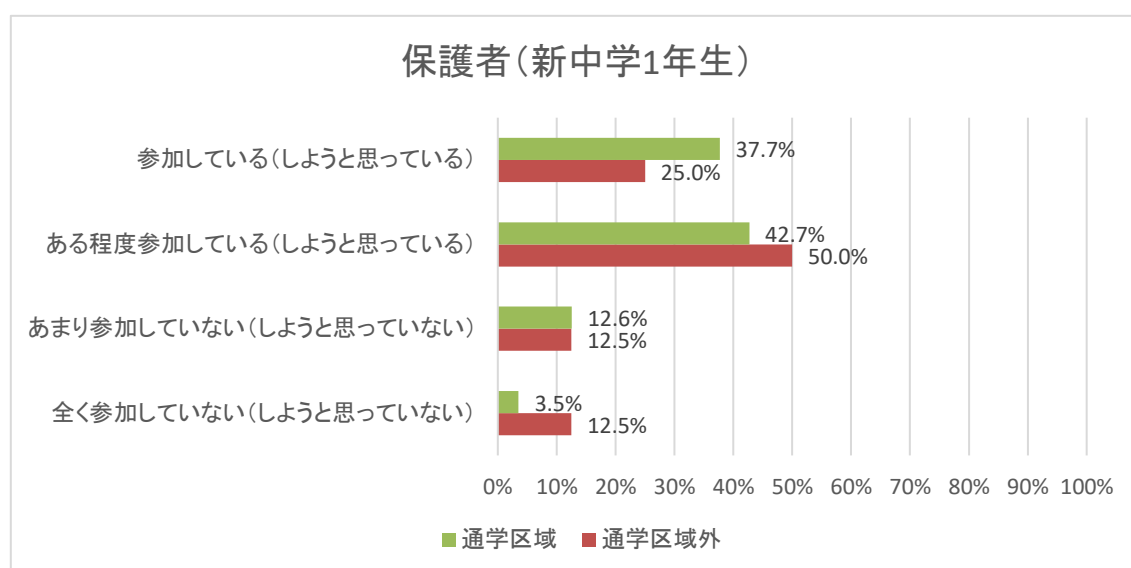


【主な理由】（自由記載一部抜粋）（記載件数全125件）

- 子どもの様子や学校の様子を見たいため。
- 子どもとの共通の話題ができたり、学校に親しみを感じられると思うから。
- 小学校の先生、保護者とコミュニケーションをとることは大切だと思うから。
- できる範囲で朝の旗当番等をして、地域とのつながりをもちたいので。

（分析）

通学区域を選択した保護者、通学区域外を選択した保護者ともに「参加している」「ある程度参加している」を合わせて、8割以上となっており、ほとんどの保護者が学校行事などに参加している。



【主な理由】（自由記載一部抜粋）（記載件数全79件）

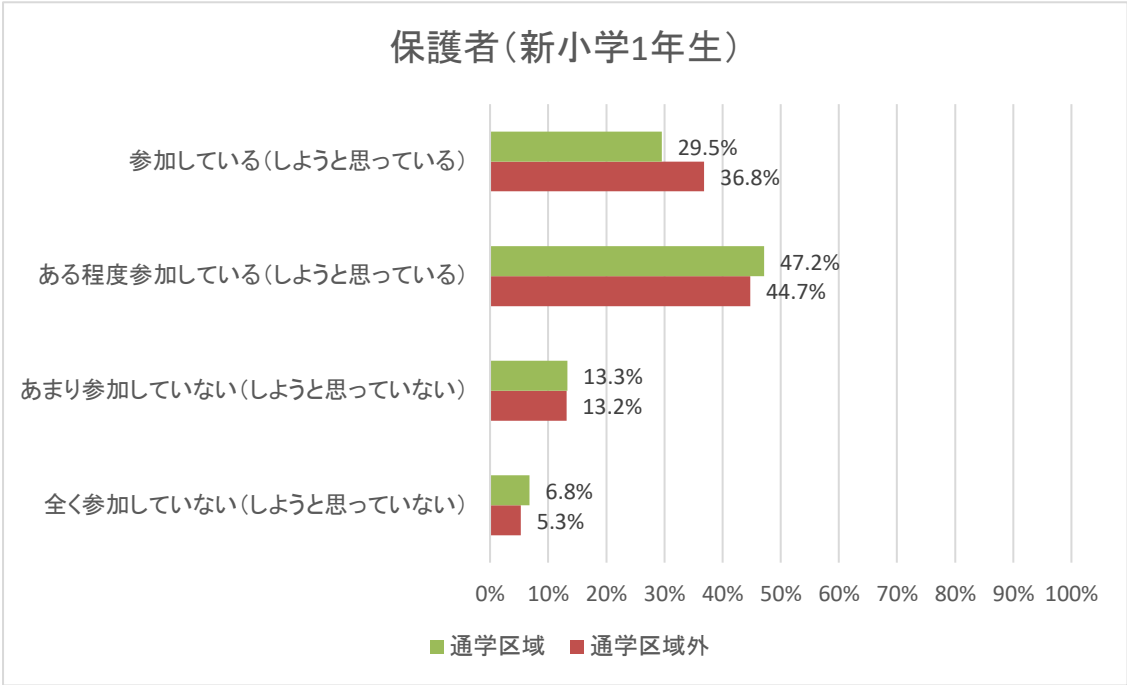
- 子どもの様子が知りたいから。PTAは子どもが通っている学校で何かの役に立ちたいから。
- 仕事の予定で参加できないこともあるが、日頃の学校での様子も知りたいと思うため。
- 学校行事は、子供たちや先生がどんな雰囲気ですごしているのか見ることもできるので参加したい。

（分析）

「参加している」「ある程度参加している」を合わせて、通学区域を選択した保護者は8割以上、通学区域外を選択した保護者は7割以上となっており、多くの保護者が学校行事などに参加しているが、新小学1年生の保護者と比べると減っている。

②あなたのお子さんは、住んでいる地域の行事(祭り等)に参加していますか、又は今後参加しようと思っていますか。

【保護者アンケート(新小学1年生):問14、保護者アンケート(新中学1年生):問14】<1つだけ回答>

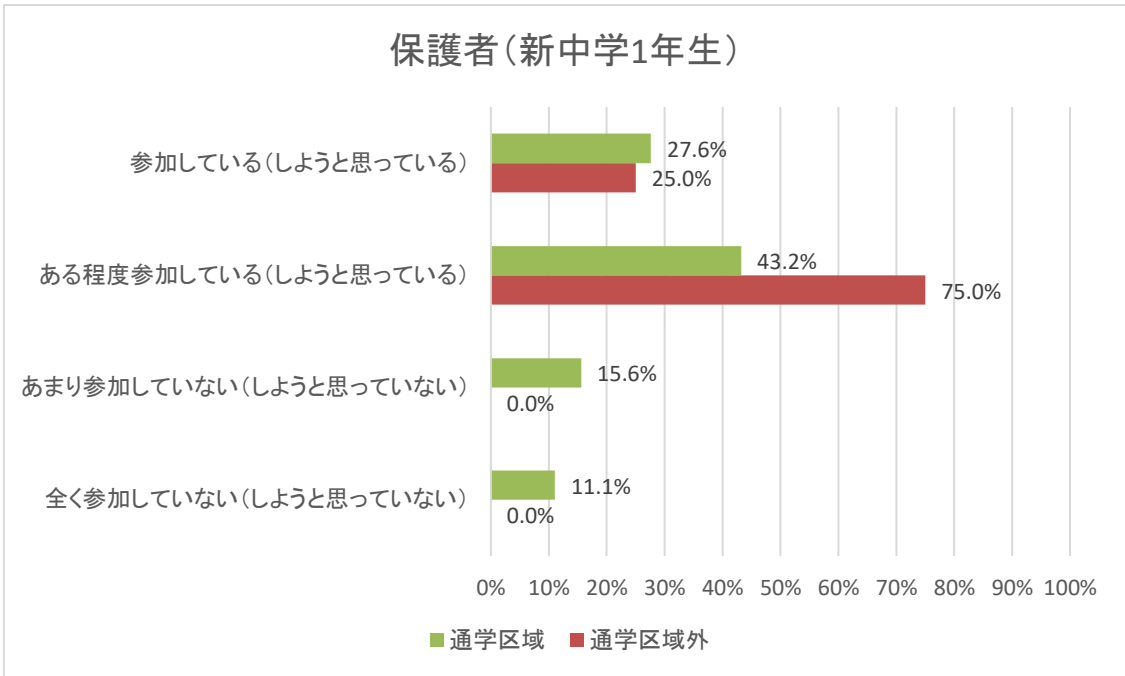


【主な理由】(自由記載一部抜粋)(記載件数全131件)

- 地域の行事などにはなるべく参加して体験させたい。
- 地域のしくみやかわりがよくわかるから。子供も楽しみにしているので。
- 参加したいですが、コロナで中止になっているためまだ参加していません。

(分析)

「参加している」「ある程度参加している」を合わせて、通学区域を選択した場合、通学区域外を選択した場合ともに約8割となっており、多くの子どもが地域行事に参加している。



【主な理由】(自由記載一部抜粋)(記載件数全62件)

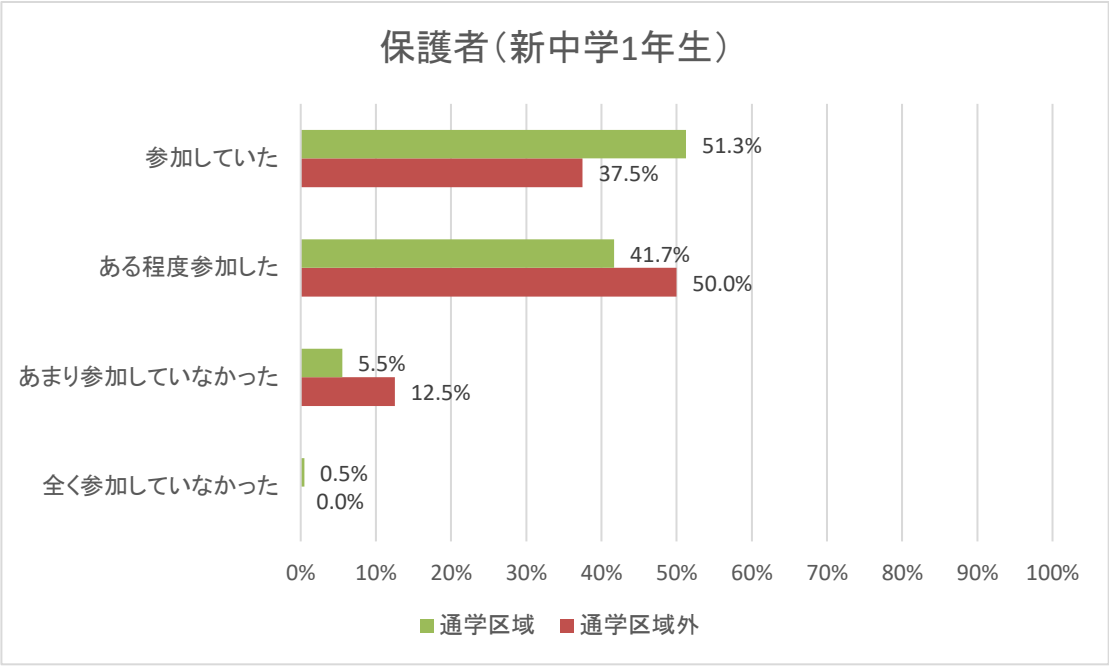
- 用事がなければ一緒に参加して、地域とのつながりを持つため。
- 習い事などの都合で参加できない時もあるが、友人から誘われたら参加している。

(分析)

「参加している」「ある程度参加している」を合わせて、通学区域を選択した場合は7割以上、通学区域外を選択した場合はすべての方となっており、通学区域外を選択した場合の方が高い割合となっている。

③あなたは、お子さんが卒業した小学校（運動会、授業参観など）の行事や、PTAの活動（親子レクリエーション、登下校の見守りなど）にどの程度参加しましたか。

【保護者アンケート(新中学1年生):問20】<1つだけ回答>



【主な理由】（自由記載一部抜粋）（記載件数全95件）

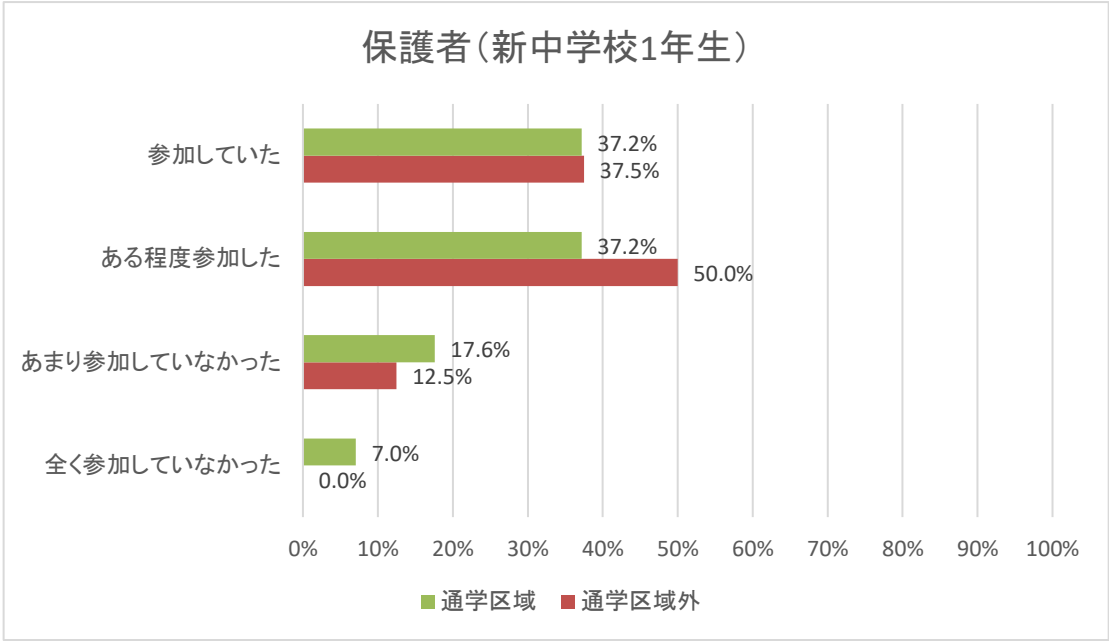
- 子供の安全を見守り、行事や授業参観に参加する事で子供の成長を見る事が出来るので。
- 小学校行事は親としても楽しみだった。PTA活動は委員の時、参加出来る時のみ手伝いをさせてもらった程度。

（分析）

卒業した小学校の学校行事やPTAの活動に「参加していた」「ある程度参加した」を合わせて、通学区域を選択した場合は9割以上、通学区域外を選択した場合は約9割となっており、通学区域を選択した場合の保護者が学校行事に参加した割合がやや高くなっている。

④あなたのお子さんは、小学校のときに住んでいる地域の行事（祭り等）に参加していましたか。

【保護者アンケート(新中学校1年生):問21】<1つだけ回答>



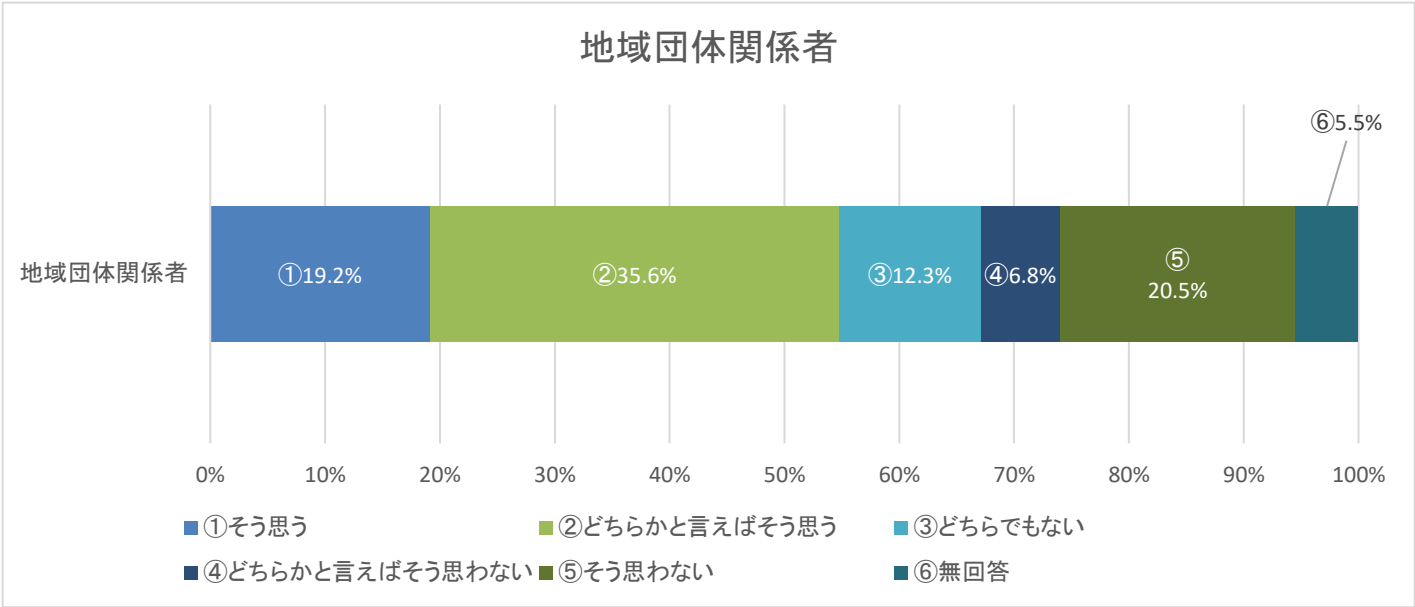
【主な理由】（自由記載一部抜粋）（記載件数全92件）

- 楽しそうだったから。又、地域の大人と関わって、日頃から見守ってもらえる様になり安心できた。
- 多くの経験、思い出が成長の糧になるので。

（分析）

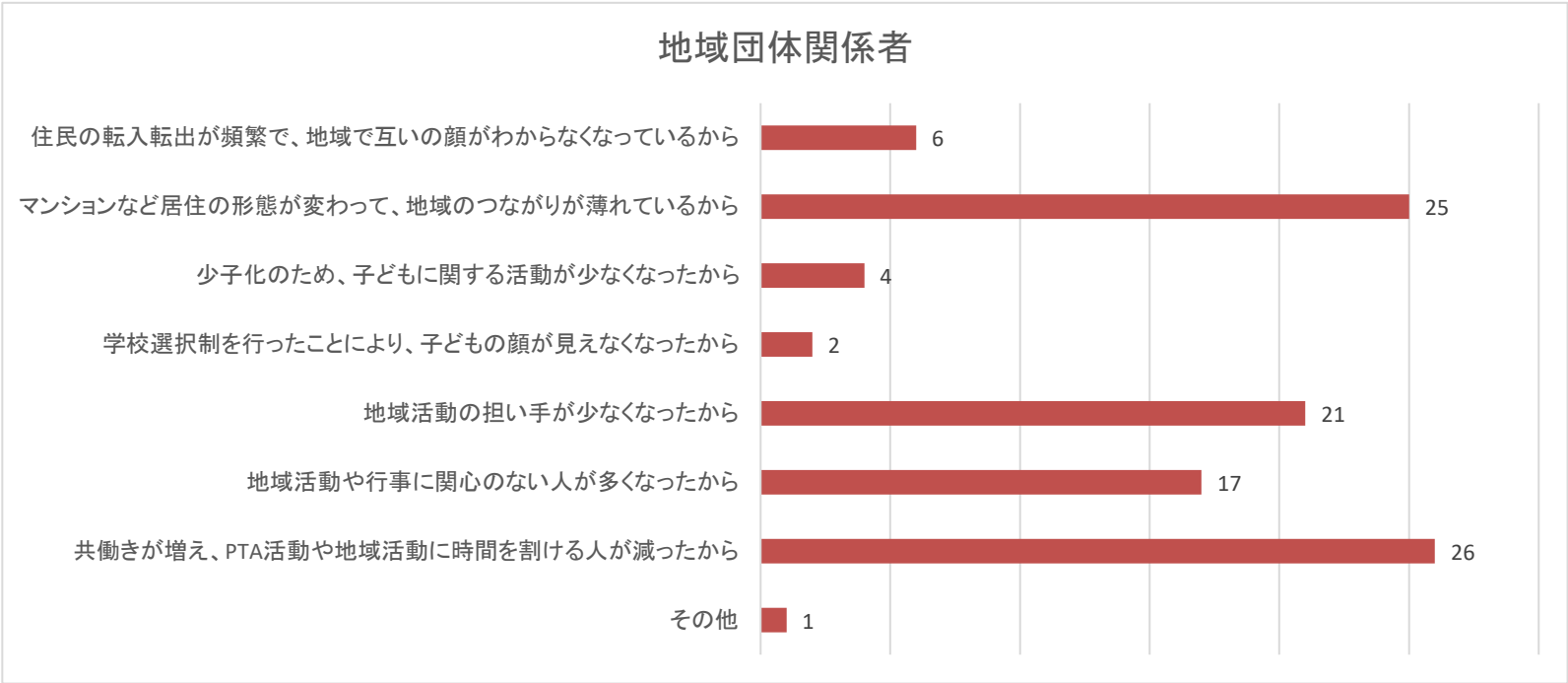
小学校の時に、住んでいる地域の行事に「参加していた」「ある程度参加した」を合わせて、通学区域を選択した場合は約8割、通学区域外を選択した場合は約9割となっており、通学区域外を選択した場合の保護者が学校行事に参加した割合が高くなっている。

⑤「地域の繋がりが薄くなっている」という意見がありますが、あなたはどのように思いますか。
【地域団体関係者アンケート：問3】 <1つだけ回答>



（分析）
「と思う」「どちらかと言えばと思う」を合わせて5割以上の方が地域の繋がりが薄くなっていると回答している。

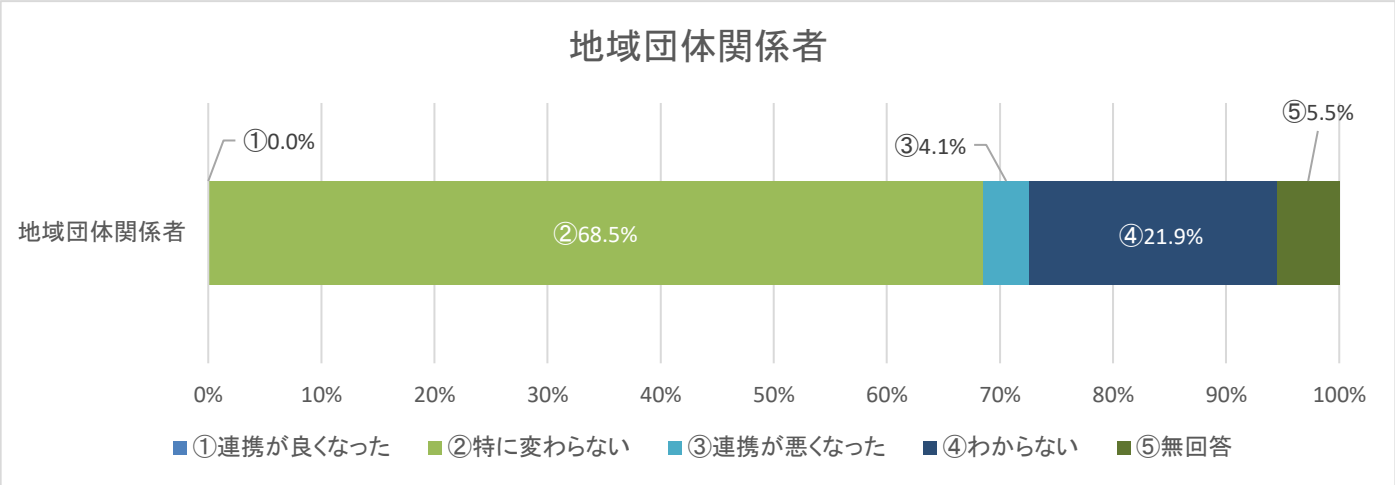
⑥上記の設問で「と思う」「どちらかと言えばと思う」とお答えいただいた方にお尋ねします。
それは何が原因だと思いますか。
【地域団体関係者アンケート：問4】<3つまで回答可>



（分析）
上記設問で「と思う」「どちらかと言えばと思う」と回答した方のうちその理由としてあげる原因は、「共働きが増え、PTA活動や地域活動に時間を割ける人が減ったから」が26件、「マンションなど居住の形態が変わって、地域のつながりが薄れているから」が25件、「地域活動の担い手が少なくなったから」が21件、「地域活動や行事に関心のない人が多くなったから」が17件などとなっている。

⑦学校選択制の導入により、あなたの地域における学校と地域の連携にどのような影響がありましたか。

【地域団体関係者アンケート:問5】<1つだけ回答>

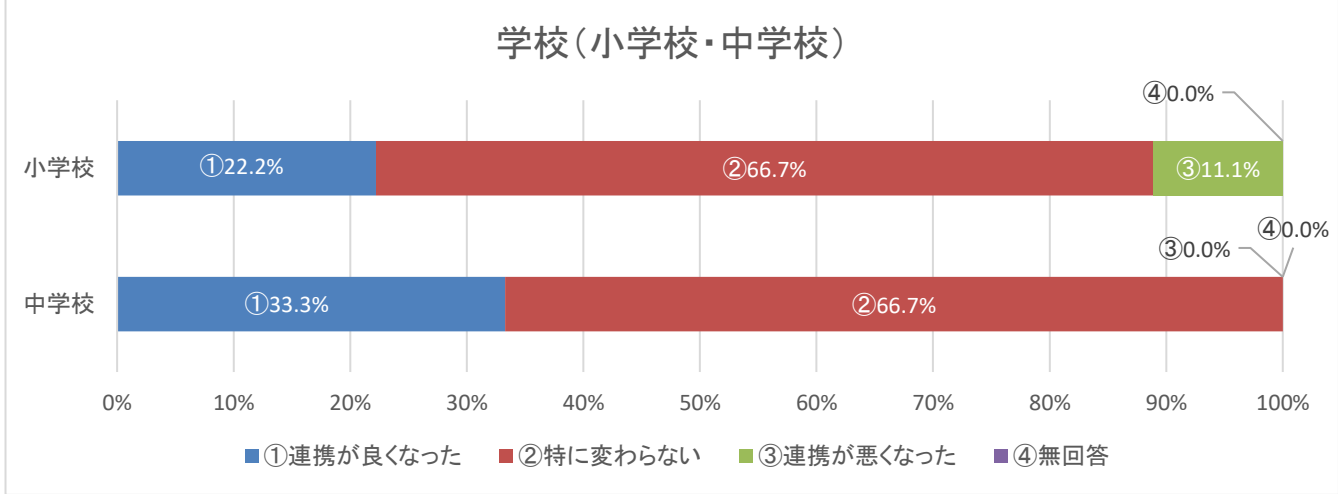


（分析）

学校選択による地域と学校との連携について「特に変わらない」と回答した方は約7割となっている。また、「わからない」と回答した方は約2割となっている。

⑧学校選択制の導入により、あなたの学校における学校と地域、保護者の連携にどのような影響がありましたか。

【学校状況調査:問11】 <1つだけ回答>



（分析）

学校選択による学校と地域、保護者との連携について「連携が良くなった」と回答した学校は、小学校で約2割、中学校で約3割となっている。また、「特に変わらない」と回答した学校は、小学校、中学校ともに6割を超えている。

【視点⑦総括】

学校の行事（運動会、授業参観など）や、PTAの活動（親子レクリエーション、登下校の見守りなど）について、小学校と中学校の保護者ともに約8割の保護者が参加又は今後参加しようと思っていると回答している。また、小学校の子ども約8割、中学校では通学区域を選択した場合の7割以上、通学区域外を選択した場合のすべての子どもが住んでいる地域の行事（祭り等）に参加又は今後参加しようと思っていると回答している。

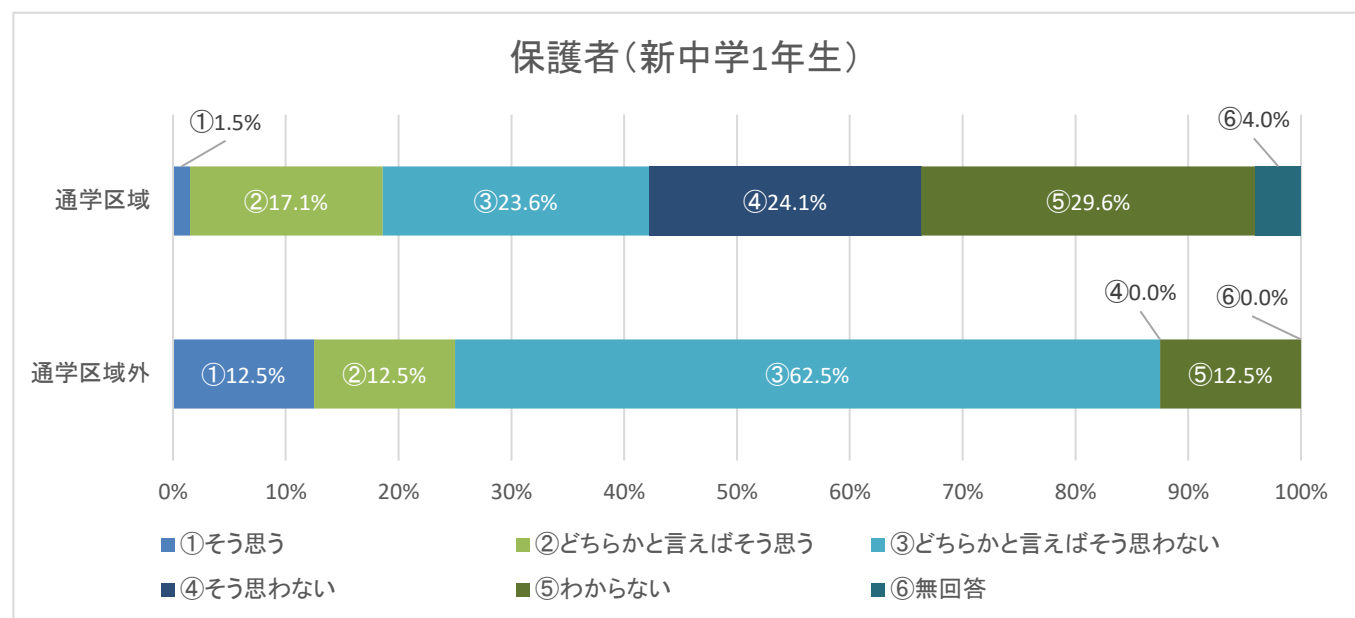
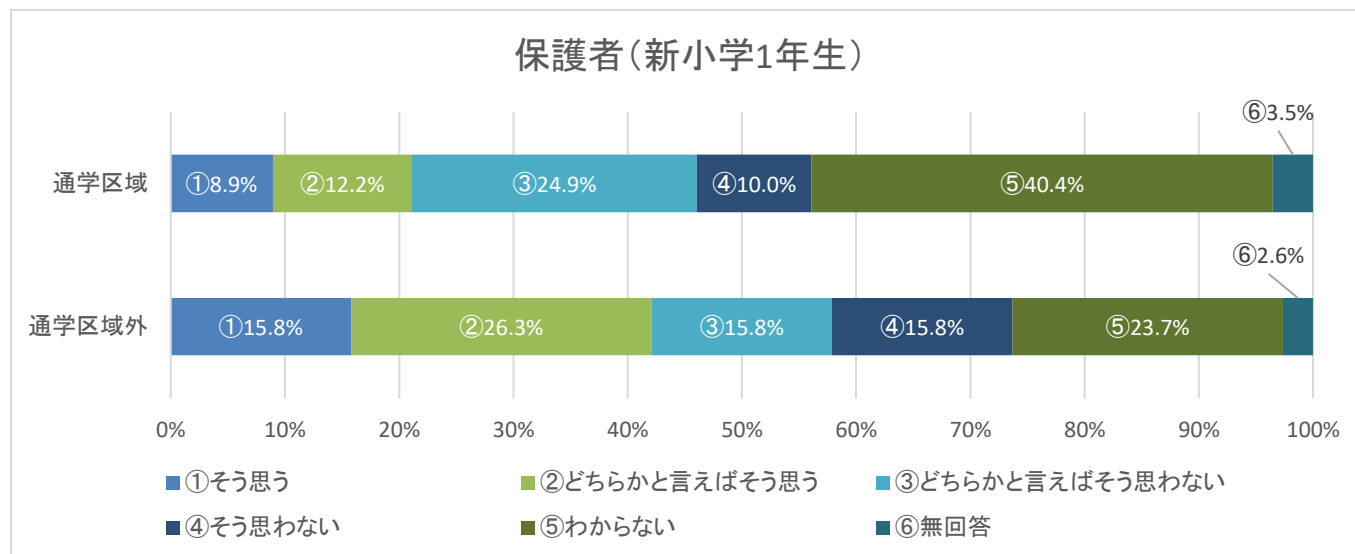
卒業した小学校（運動会、授業参観など）の行事や、PTAの活動（親子レクリエーション、登下校の見守りなど）の参加については、約9割が「参加した」「ある程度参加した」と回答している。また、小学校のときに住んでいる地域の行事（祭り等）の参加については、通学区域を選択した場合は約8割、通学区域外を選択した場合は約9割が「参加した」「ある程度参加した」と回答している。

地域団体関係者の5割以上が、地域の繋がりが薄くなっていると回答している。理由としては、「共働きが増え、PTA活動や地域活動に時間を割ける人が減ったから」「マンションなど居住の形態が変わって、地域のつながりが薄れているから」「地域活動の担い手が少なくなったから」「地域活動や行事に関心のない人が多くなったから」などが多かった。地域団体関係者の約7割、小学校、中学校ともに6割以上が学校選択制の導入による学校と地域、保護者の連携について、特に変わらないと回答している。

【視点⑧】 区や学校が提供する情報ではなく、風評等による学校の選択がなされていないか

①大阪市では、学校案内や学校説明会、学校公開等において、各校の情報を提供しています。あなたや他の方も含め、風評(うわさ)等による学校の選択が行われていると思いますか。

【保護者アンケート(新小学1年生):問16、保護者アンケート(新中学1年生):問16】<1つだけ回答>



【具体的な風評の内容】(一部抜粋)(記載件数全99件)

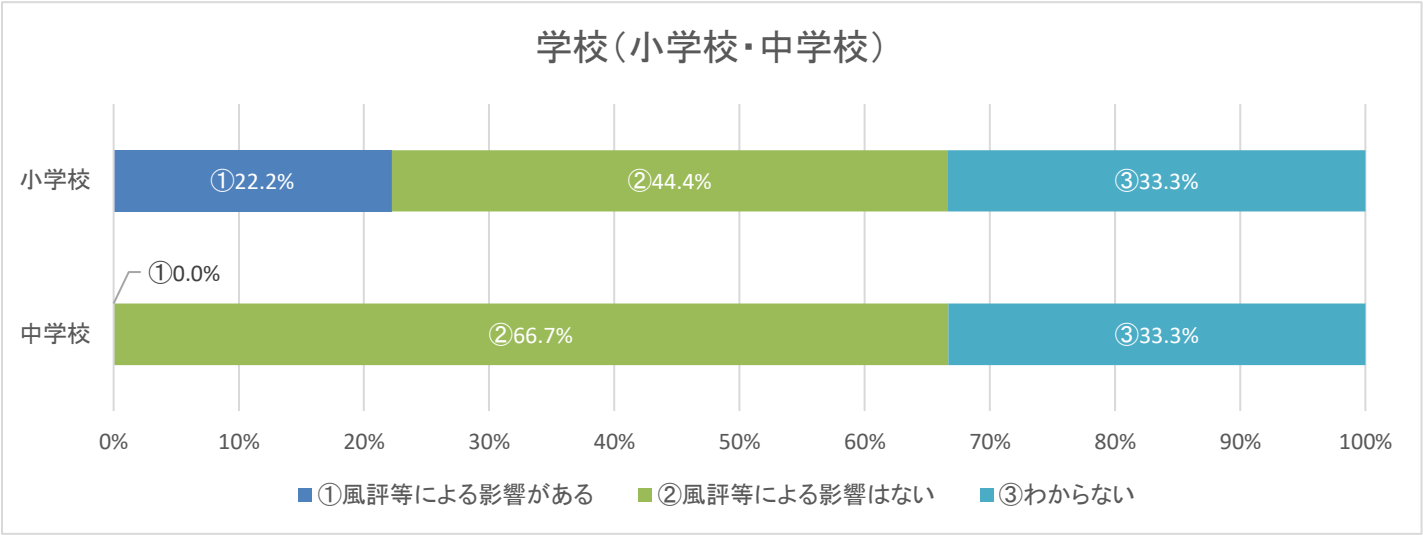
- 学校の雰囲気など。
- 学習の内容。
- 学力の差、児童数など。
- 部活動の質や量の事。
- いじめや生徒の雰囲気。

(分析)

「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」を合わせた割合が、新小学1年生の保護者で通学区域を選択した場合は21.1%、通学区域外を選択した場合は42.1%、新中学1年生の保護者で通学区域を選択した場合は18.6%、通学区域外を選択した場合は25.0%となっている。
一方、「そう思わない」「どちらかと言えばそう思わない」を合わせた割合は、新小学1年生の保護者で通学区域を選択した場合は34.9%、通学区域外を選択した場合は31.6%、新中学1年生の保護者で通学区域を選択した場合は47.7%、通学区域外を選択した場合は62.5%となっている。

②区や学校が提供する情報ではない風評(うわさ)等による学校選択によって、あなたの学校に影響がありますか。

【学校状況調査:問12】<1つだけ回答>



- 【そう考えた具体的な出来事等】（一部抜粋）（記載件数全3件）
- ・他校より児童が落ち着いているとか、成績がよいなど。
 - ・特支学級が良い・充実している等で選択していただくケースが多いようです。

（分析）

「風評等による影響がある」と回答する小学校は約2割となっており、「風評等による影響はない」と回答する小学校は4割、中学校は6割を超えている。

③学校選択にあたり、区役所や学校から提供されていた情報のほかに、どのような情報があればよかったと思いますか。

【保護者アンケート(新小学1年生):問17、保護者アンケート(新中学1年生):問17】<自由記述>

- 【具体的なご意見】（一部抜粋）（記載件数全135件）
- ・在校生の保護者の方の生の声を聞ける機会があれば良かったと思う。
 - ・生徒達の声。
 - ・始業時間、登校方法、通学路等。
 - ・登校班の有無。
 - ・入学準備の内容。
 - ・PTAの活動内容。
 - ・いじめなどの対応について。
 - ・授業の仕方なども詳しく特色があれば知りたいと思います。
 - ・学力向上のための取り組み。
 - ・先生についての情報。
 - ・各部活動の曜日や時間（土、日、祝、長期休みも含む）。
 - ・自宅学習のサポートなど課外時間の取り組み。

（分析）

小学校、中学校ともに学校選択にあたっては、区役所や学校からの情報の他に、現在通っている保護者や生徒、児童の感想、クラブ活動、PTA活動に関すること、いじめへの対応などの回答が多数あった。

【視点⑧総括】

小学校では、通学区域を選択した保護者の約2割、通学区域外を選択した保護者の約4割、中学校では通学区域と通学区域外ともに約2割の保護者が、風評等による学校の選択が行われていると思うと回答している。具体的な内容としては、「学校の雰囲気」や「学習内容」「学力について」「クラブ活動」「いじめへの対応」などがあった。

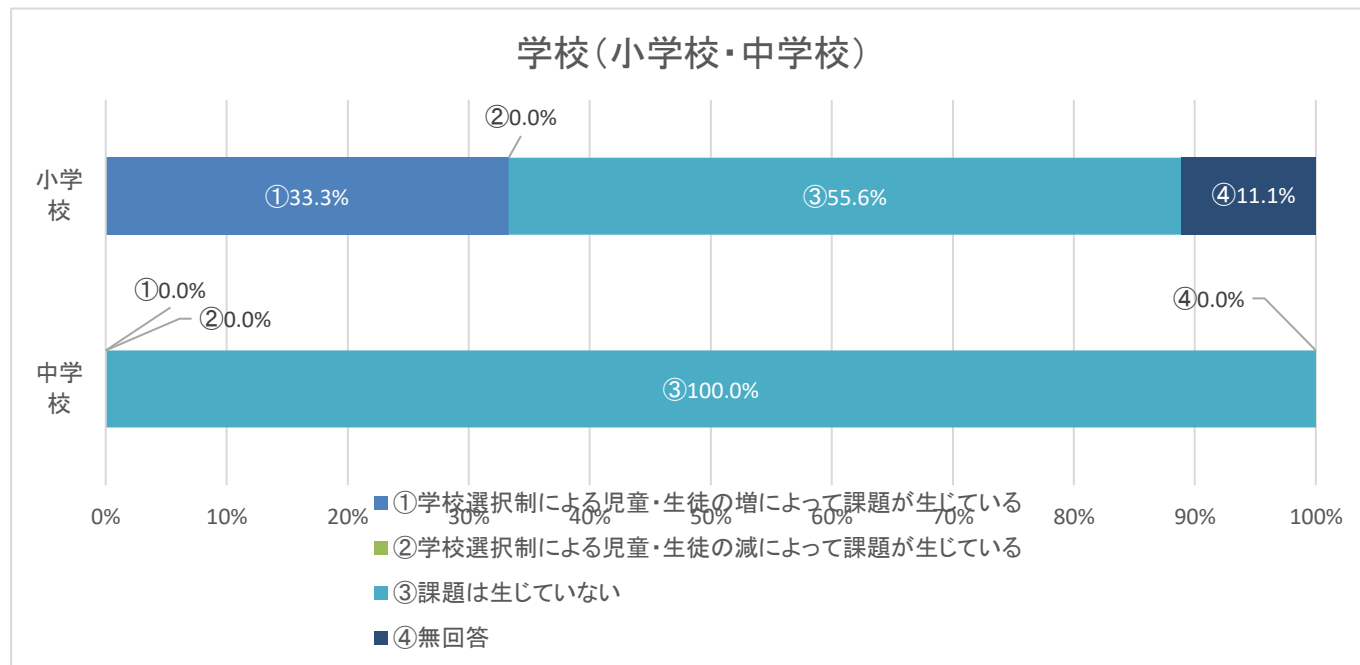
学校では小学校の約2割が風評などによる学校の選択が行われていると思うと回答しており、小学校の4割以上、中学校の6割以上が風評などによる学校選択は行われていないと回答している。

また、区役所や学校からの情報以外に在校生やその保護者の感想や学習についての取組み、クラブ活動の詳細などの情報が欲しいとの意見があった。

【視点⑨】学校選択制による児童生徒数の増減で、教育的課題が生じていないか

①学校選択制による児童・生徒の増減で、あなたの学校に教育的課題が生じていますか。

【学校状況調査：問13】＜1つだけ回答＞



【具体的な理由】

○学校（小学校・中学校・一部抜粋）（記載件数全4件）

- ・生活科、社会科の校区探検では、自分の生活圏とは違う校区について学ぶことになる。
- ・教室が足りないため、運動場にプレハブ教室を設置しているが、そのために、運動場がかなり狭くなっている。また、空き教室がないため、習熟度別少人数授業等が実施しにくい。
- ・以前児童数が増加して、多目的室や図工室などを普通教室に改造した。現在も同じような児童数で推移しているため、特別教室がない状態で授業を進めている。

（分析）

小学校では、約3割の学校が学校選択による児童数の増加で教育的課題が生じていると回答している。具体的な内容としては、「自分の生活圏と違う地域について学習することになる」ことや「教室不足」「学校施設の増改築」などがあった。小学校の5割以上とすべての中学校は「課題が生じていない」と回答している。

【視点⑨総括】

ほとんどの学校が学校選択による児童数の増減で「教育的課題は生じていない」と回答しているが、小学校の約3割は「児童の増加により教育的課題が生じている」と回答している。具体的には、「学習内容への影響」や「教室不足」への懸念となっている。

【調査・分析のまとめ】

今回、9つの視点に分けて調査分析を行った内容については、以下のとおりである。

【視点①】学校選択制の満足度はどうかという点については、保護者では学校ごとの人数の偏りなどを危惧する意見も一部にはあるが、基本的には学校選択制の制度自体を肯定的に受け止めており、就学した学校に対する満足度も全体として高い結果となっている。また、地域団体関係者では、選択肢が広がることで保護者やこどものニーズへの対応が可能となったり、学校について考察するきっかけができるなどの意見があり、半数を超える方が肯定的に受け止められているようである。

【視点②】子どもや保護者が意見を述べ、学校を選ぶことができるかという点については、通学区域外の学校に就学した子どもの保護者は、学校選択にあたって意見を述べることができていると思う割合が高くなっている。希望調査票の提出率も全体的には年々高い傾向となっており、希望の意思表示も進んできている。

【視点③】子どもや保護者が学校教育に深い関心を持つようになったかという点については、保護者では学校選択制による影響について肯定的な割合が多く、通学区域外に就学する子どもの保護者の方がより肯定的にとらえている。一方、学校では、学校教育への関心を深めることに対して、一部の小学校では、学校選択制が主な影響要因になっていると考えていないことが推察される。

【視点④】特色ある学校づくりが進んだかという点については、保護者では肯定的に受け止めている方々とそうでない方は同じ割合となっており、受け止め方の理由は様々であるが、通学区域外の学校に就学する子どもの保護者は肯定的に受け止めている割合が高い。一方、学校では学校選択制の制度発足以前から長年にわたって特色ある学校づくりを育んできた経過があり、学校選択制が主な影響要因となっているとは限らないと考えている学校がほとんどである。

【視点⑤】開かれた学校づくりが進んだかという点については、授業参観や学校公開などの充実に関して、学校選択制による影響があったと思っている保護者、地域団体関係者、学校の割合は肯定的な受け止めは一定あるものの、それほど多くない。一方、学校における情報発信の充実に関しては、制度の運用を通じて学校案内の作成、ホームページでの情報提供などが行われていることから、学校選択制による影響があると半数近くの保護者や地域団体関係者が受け止めている。

【視点⑥】児童生徒の通学の安全に課題が生じていないかという点については、通学区域内からの通学についても一定課題があると認識されており、特に通学区域外から通う小学生について課題があると受け止められている。また、小学校の多くでも課題があると考えており、学校選択制の課題となっている。多くの保護者は、学校選択にあたり通学路の確認を行っており、通学区域外の学校に就学する子どもの保護者は、通学路の安全について確認を行っている割合が高い。

【視点⑦】学校と地域、保護者の連携に課題が生じていないかという点については、学校の行事、PTA活動、地域の行事について、多数の保護者は参加について意欲を持っており、地域団体関係者や学校でも、学校選択制を導入したことによって学校と地域、保護者との連携に特に影響を与えているとは考えていない。

【視点⑧】区や学校が提供する情報ではなく、風評（うわさ）等による学校の選択がなされていないかという点について、新小学1年生の保護者、新中学1年生の保護者ともに風評等による学校選択が行われていると思う方々もいる一方、風評等による学校の選択は行われていないと思う方々もいる。また、区役所や学校から提供されていた情報のほかに、在校生やその保護者の感想、先生やクラブの情報も参考にしたいという意見もある。

【視点⑨】学校選択制による児童生徒数の増減で、教育的課題が生じていないかという点について、中学校においては課題が生じていないとする回答が多い一方、小学校においては課題が生じているとする回答があり、学校選択制導入後、児童数の増加により学校施設の増改築や運動場が狭くなるなど、教育環境の悪化を危惧する学校があることや、自分が暮らす生活圏とは違う地域について校区探索で学習するというギャップが生じる問題などが指摘されている。

【まとめ】福島区の学校選択制について、上記の視点で検証を行った結果、情報発信や特色のある学校づくりなど当初期待されたほどの大きな効果がなかった項目や、通学の安全課題があるものの、概ね肯定的に受け止められている結果であると言える。また、制度導入から現在までに特段大きな問題はなく、制度の改善の要望も特になく順調に運用してきている。このことを踏まえ、今後も現行の実施内容を継続し、適切な制度運用に努める。